

新人体育大会代表者会議次第

総務部

1 日時 令和8年10月13日(火)

受付 10:00～10:30 (集金、書類提出等)

10:30～ 専門部の打ち合わせ開始予定

常任委員の先生方は準備の関係で9:00集合

※時間にご注意ください。

2 場所 リプロ武道館(分科会) 第二道場

3 内容

(1) 分科会 申込用紙(団体2部、個人1部、個人一覧2枚)提出

① 大会役員及び係分担の決定(決定後に確認事項に入る)

② <大会確認事項>

	(司会 副委員長 七条 剣)
埼玉県中体連剣道専門部長・委員長あいさつ	(門井 五雄、上野慶一郎)
提出資料、配布資料の確認、警備について	(総務部)
会計等について	(会計部)
記録報道について	(記録報道部)
試合運営、会場使用等について	(競技部)
審判について	(審判部)
強化計画について	(強化対策委員)

③ <抽選会(団体戦)> ※競技部が中心で行う
男子団体→女子団体

～代表者会議終了、解散～

(3) 各部で作業

- ・個人戦組み合わせ(強化対策委員会による個人戦責任抽選)
- ・プログラム編成(総務部) ・審判主任選出、審判組み合わせ等(審判)
- ・用具の確認(競技部) ・会場費支払い(会計部)

＜代表者会議提出書類について＞

総 務 部

1. 申込用紙の提出及び確認の方法について

- ①県大会個人戦出場者名簿（各地区専門委員長）
→専門部ホームページよりダウンロードできます。

②団体戦・個人戦申込書、県大会参加費（一人1,000円×人数分）

※団体戦・個人戦の申込用紙については県中体連ホームページよりダウンロードしてください。

→団体個人両方出場の場合でも1,000円 お釣りのないようお願いします。

各顧問が代表者会議に持参し、下記のように提出する。

団体戦（原本1、コピー1）

個人戦（原本1）

2 書類不備または未提出の場合の処置

原則として出場できない

教育的処置として・・・個人戦組み合わせ終了までに学校に戻り再提出する

3 配付資料（組み合わせ表等）

各自ダウンロードする。

4 その他

- （1）個人戦で欠場が出た場合、各地区専門委員長は補欠の選手を速やかに本部へ報告する。
- （2）選手宣誓：競技部の資料を参照
- （3）優勝杯返還：当日、忘れずにステージ上にお持ち下さい。
男子団体：城北埼玉 女子団体：朝霞第三
今大会から個人戦の優勝杯を新調しました。来年度から優勝者は返還をお願いします。

令和8年度 各地区専門委員長及び剣道競技の出場定数について

1 県大会出場定数の地区配当については地区ごとに定めてある。

(1) 新人体育大会(男 女 共 通)

※学総大会の結果からの出場枠の増加はなし。

地区			代表者	詳細地区	代表者	団体戦	個人戦	備考
東	北埼	2	千代田康仁(昭和)	加須市	千代田康仁(昭和)	2	8	団体戦 出場校×4 個人戦 出場数
				羽生市	山中弘樹(羽生南)			
				行田市	飯塚崇晃(忍)			
	埼葛	7	布施拓也(春日部東)	越谷市・八潮市	土田翔平(越谷北)八重田心(大原)	2	8	
				久喜・幸手	村上具世(久喜太東)	1.25	5	
				春日部市	布施拓也(春日部東)	1.25	5	
				三郷市・吉川市・松伏町	伊藤彰清(吉川中央)	1.25	5	
				四地区(白岡・杉戸・宮代・蓮田)	伊川諒(杉戸)	1.25	5	
西	入間	11	安部徳晃(川越東)	所沢市	大橋拓真(所沢北野)	2	8	
				狭山市	菊川樹(狭山中央)	1	4	
				川越市	門間愛(富士見)	3	12	
				入間東部	田山のどか(三芳)	1	4	
				入間西部	大埜翔(飯能第一)	1	4	
				入間市	赤間英生(武蔵)	1	4	
				入間北部	図師大智(住吉)	2	8	
	比企	2	福田訓昌(滑川)	比企	福田訓昌(滑川)	2	8	
				東松山市	小松里香(東松山北)			
南	川口	3	翠川洋平(川口北)	川口市	翠川洋平(川口西)	3	12	
	朝霞	2	安田武史(新座)	朝霞市	神崎士龍(朝霞第一)	2	8	
				志木市	塚崎瑞起(志木第二)			
				和光市	服部政胤(和光第二)			
				新座市	安田武史(新座)			
	県南	3	長聡史(川柳)	戸田市	遠藤啓太(戸田東)	3	12	
				蕨市	三改木宏旺(蕨第二)			
				草加市	長聡史(川柳)			
北	北足立北部	1	石渡遼(上尾東)	上尾市	石渡遼(上尾東)	1	4	
		2	大野久生(鴻巣北)	桶川市	富永晋也(桶川東)	2	8	
				北本市	北本美沙子(北本)			
				鴻巣市	大野久生(鴻巣北)			
				伊奈町	黒岩慶圭(伊奈南)			
	秩父	1.5	町田竜志(秩父第一)	秩父市	町田竜志(秩父第一)	3	6	
				秩父郡	福井康太(皆野)		6	
	児玉	1.5	宮関俊光(本庄南)	本庄市・児玉郡	宮関俊光(本庄南)			
	大里	3	岩田健太郎(妻沼東)	熊谷市	千島京香(別府)	3	6	
				深谷市	小田直城(藤沢)		6	
				寄居町	大澤尚子(城南)			
さいたま市		8	内田峻介(三室)	さいたま市	渡邊正浩(大宮西)	8	32	
地域スポーツ団体		1	中村孝(秩父第二)上野哲平(吉川南)			1	4	
合計		48				48	192	

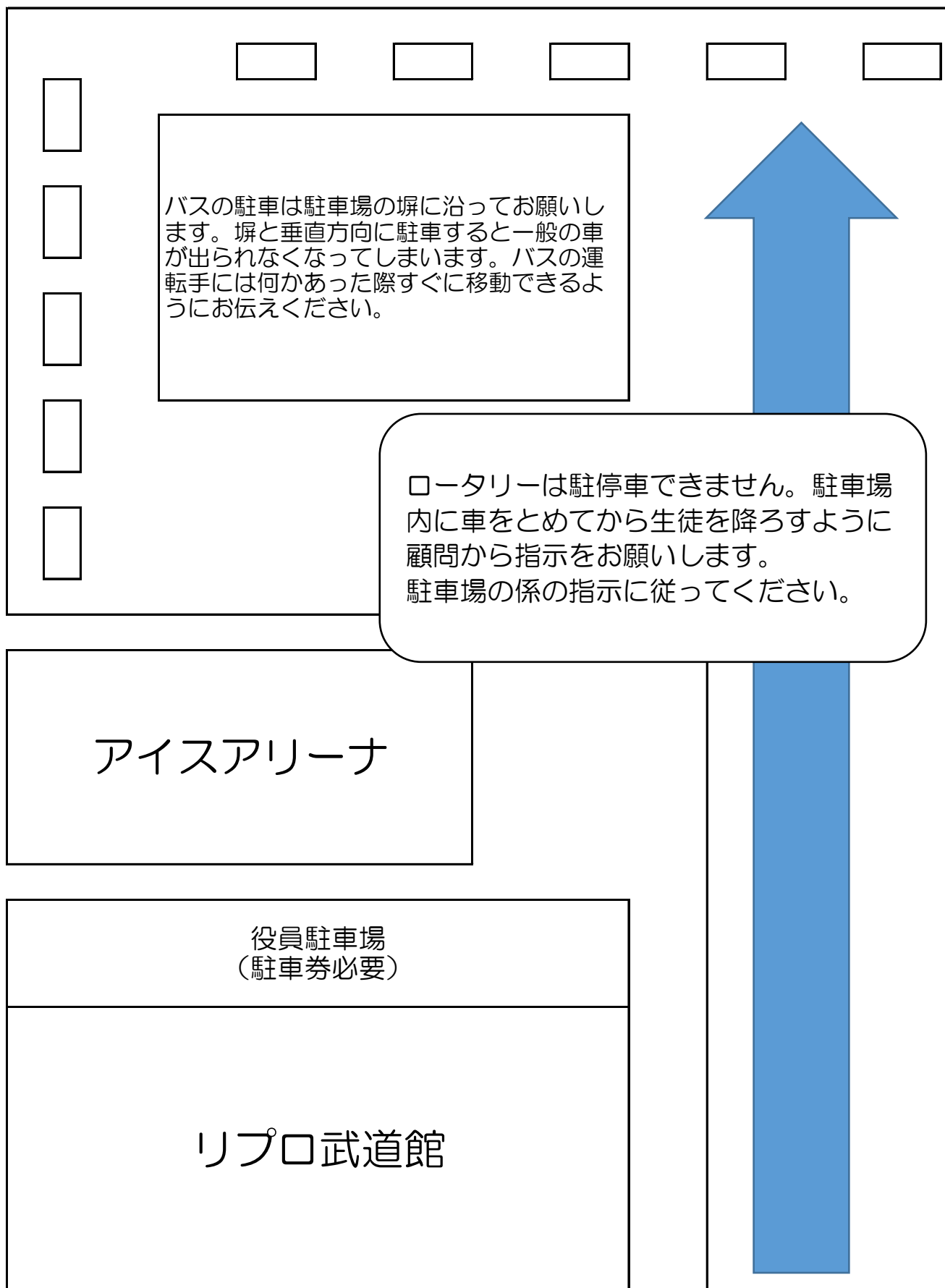
地域スポーツ団体の参加がなかった場合

団体戦…トーナメントに「地域スポーツ団体」という表記をし、不戦敗扱いとする。

個人戦…トーナメントに「地域スポーツ団体」という表記をし、不戦敗扱いとする。

※地区予選会への参加チーム数が定数と同数の場合(定数1に対して参加チーム数が1など)、近隣の地区との予選を経て県大会出場となる場合がある。

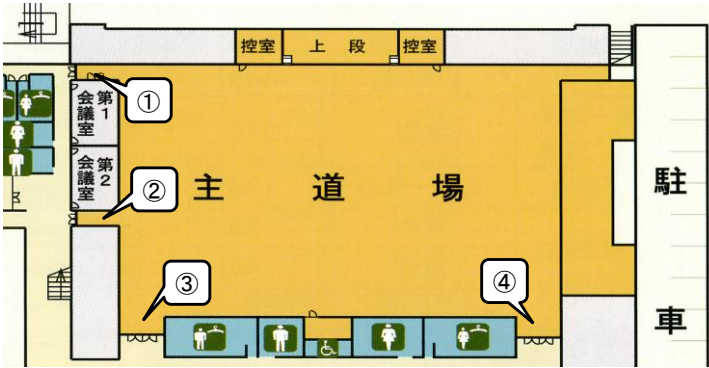
リプロ武道館駐車場 バスの駐車について



新人体育大会県大会(剣道)団体戦 会場役員校および係分担

日時		10／22(木)団体戦							
試合場		第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場	第5試合場	第6試合場	第7試合場	第8試合場
会場役員	会場主任								
	役員								
		役員校							
7時30分正面入口集合 をお願いします。		受付							
		入館誘導	強化対策委員						
		整列指導	強化対策委員						
		駐車場ロータリー							
		駐車場奥							
		駐車場役員	強化対策委員						
竹刀検定(北部)									
館内警備	①								
	②								
	③								
	④								
	2階観客席	各学校で事前にご指導をお願いいたします							

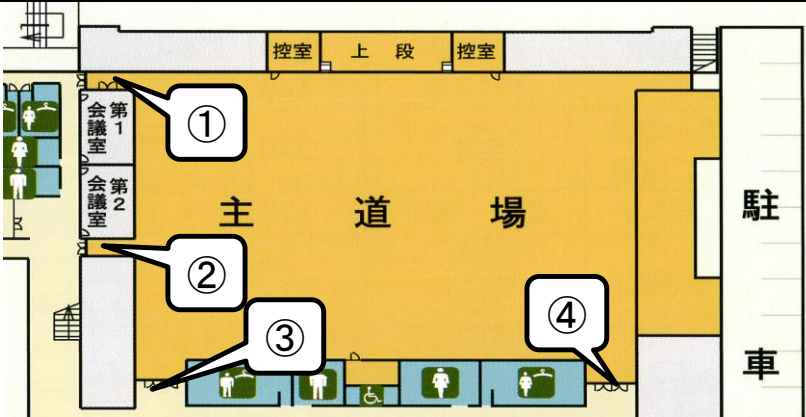
※館内警備の担当の先生方は、アップ開始後にステージ前に集合してください。



埼玉県剣道大会(中学生の部) 会場役員および係分担

		10/23(金)埼玉県剣道大会(中学生の部)							
		第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場	第5試合場	第6試合場	第7試合場	第8試合場
全体指揮 巡回指導役員									
会場役員 校	会場主任								
	会場役員								
	役員校								
7時30分正 面入口集合 をお願いします。		受付							
		入館誘導	強化対策						
		整列指導	強化対策						
		駐車場ロータリー							
		駐車場奥							
		駐車場役員	強化対策						
竹刀検定(北部)									
館内警備	①								
	②								
	③								
	④								
	2階観客席	各学校で事前にご指導をお願いいたします							

※館内警備の担当の先生方は、アップ開始後にステージ前に集合してください。



剣風



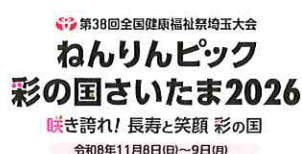
事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 4 階
Tel (048)834-8869



埼玉剣連 HP ▶

第26号 令和 8 (2026) 年 9 月 1 日発行 (題字 元会長 野澤 治雄)

ねんりんピック彩の国さいたま 2026 剣道交流大会 監督選手紹介



開催場所 行田グリーンアリーナ

開催日程 令和 8 年 11 月 8 日 (日曜日) 予選リーグ 10 時 20 分開始予定

令和 8 年 11 月 9 日 (月曜日) 決勝トーナメント 9 時 30 分開始予定

埼玉県、さいたま市の代表選手団を紹介します。沢山の応援をお願いします。
入場無料。

	埼玉県A		埼玉県B		埼玉県C	
監督	渡辺 秀男	(東松山)	狩野 清志	(熊谷)	甲村 龍彦	(北本)
選手	徳村 忠	(川口)	加藤 康幸	(東松山)	内野 保	(所沢)
	上條 浩一	(上尾)	篠崎 仁志	(東松山)	小川 明巳	(川口)
	米山 和仁	(熊谷)	柿沼 日出美	(熊谷)	町田 進	(秩父)
	小島 光正	(秩父)	設楽 浩	(秩父)	手島 隆治	(熊谷)
	中山 良彦	(熊谷)	立山 健治	(朝霞)	大塚 昌宏	(行田)
	森田 英仁	(加須)	川上 満	(杉戸)	爲谷 昇	(久喜)
	今井 美行	(秩父)	豊島 和	(所沢)		
	さいたま市A		さいたま市B			
監督	岡田 昇	(浦和)	吉岡 和男	(大宮)		
選手	森田 哲也	(大宮)	岩本 康寿	(浦和)		
	大野 泰	(浦和)	堀田 明良	(浦和)		
	横田 博	(浦和)	弦巻 裕之	(大宮)		
	関口 啓一	(浦和)	筑紫 義明	(浦和)		
	塚越 卓	(浦和)	大江原 博臣	(大宮)		
	澤野 富夫	(浦和)				



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

「大会に向けての抱負」

総監督 警察 藤田 利美

ねんりんピック彩の国さいたま2026剣道交流大会が、11月8日及び9日の2日間、行田市グリーンアリーナで開催されることに伴い、連盟としましても例年以上に強化を図っているところでございます。

本大会には、埼玉県代表として、3チームが出場しますが、優勝を目指し本年3月に開催されました予選会以降、監督3名と強化選手20名の計23名で練習会や月例稽古等で強化をしているところです。

また、チーム編成も決定し強化選手の先生方も練習会等を重ねるごとに技術面、気力面が充実してきているとともに、各チーム監督を中心にチームワークも醸成され良い状態となってきました。

つきましては、各チーム優勝を目標に頑張る所存でございますので、何卒多くの方々にご来場とご声援をお願い申し上げ、総監督としての抱負とさせていただきます。

私の剣道修行（師の教え）

剣道教士八段 金田 孝行



私は、小学校四年生の時に剣道を初め、中学生の地方大会で、鹿児島商工高等学校矢崎時雄先生の目にとまったことから、強豪高校での本格的な剣道修行が始まりました。

先生の教えは、試合に臨む以上は、「必ず優勝～2位以下は最下位と同じ」「勝てば官軍、負ければ賊軍」が口癖で、常に強気な姿勢を崩さず、厳しい勝負の世界の現実を説かれていました。

恩師である矢崎時雄先生は、すべての学生の就職、進学の面倒を見ていただき、厳しいだけでなく、社会人として自立させるまでが自らの仕事であるという強い教育信念を持たれていました。

その中でも、私の中に深く刻まれているのは、「時間」「人間」「空間」といった、三間を正すということです。

- ・時間を守る。（大切に）先生自らも、約束どおり二時間以上の稽古はさせなかった。
- ・挨拶をする。大きな声で、先生、先輩、親に対して、しっかりとした挨拶をする。
- ・身の回りを綺麗（生活態度を正す）にする。掃除はもちろんのこと、金銭出納簿と剣道日誌をつけさせるなど、人間的な成長を促してくださいました。

大学は、中央大学へ進むことになりました。

師範 中倉 清先生 剣道、居合道範士九段

昭和の武蔵と謳われ、紹介するまでもありませんが、先生とのエピソードをお話させていただきます。

当時、73・4歳かと思います。鹿児島商工高校の矢崎時雄先生との繋がりもあり、先生には積極的に稽古もお願いしました。すると、先生の右足でなく左足が前に出たと思ったら、出小手に斬られ、小手を防ぐと面を打たれ、次第に隅に追いやられ、前後左右動けず居着いたところに片手突き、この突きが不思議なことに喉の奥に鈍痛を伴うものでした。また、稽古では、中倉先生の半面を何回もいただきました。右の鼓膜は2回破れました。後にも先にも破れたのは中倉先生との稽古だけ。今となっては、もっと話を聞いたり、稽古をお願いしていたらと悔やまれます。贅沢な学生時代でした。

監督 津村耕作先生 剣道教士八段

全日本学生剣道大会で7回優勝に導く名将とされ、あの赤胴鈴之助のモデルだったとの話しも聞いております。

先生は、「文武芸道」という独自の理念を持っておられました。学業（文）と剣道（武）だけでなく、人間としてのコミュニケーション力を養うために「芸」を重んじてました。

絶対服従の時代に、学生に問いかけ、考えさせるスタイル、全部員で勝つ、誰一人として置いてきぼりにしない、この考えに先生のために日本一になると誓ったものです。

当時は、津村マジックと言われ、有名選手がそんなにいないにもかかわらず、四年時に、全日本学生剣道優勝大会で優勝したのは、こういった背景があったからだと思います。

埼玉県警察に入ってから、特練の現役とコーチで16年間、監督6年間と人生の3分の1を剣道修行に費やすことが出来ました。特練に入ったときは、根岸一雄先生が監督をされており、先生の話されていた「迷ったら、正攻法」は、人生のあらゆる場面で活かされています。

現役の際は、切り返し、掛かり稽古、打ち込み各20分、後半指導稽古が主な練習メニューでした。また、埼玉県剣道連盟の夜稽古のときは、一日に3回みっちり鍛えていただきました。

当時の夜稽古で橋崎正彦先生をお願いしたときは、面を打っていくと、突き上げられそうで、小手面しか打てなかったのを思い出します。

現役を38歳で終わり、指導者の道に入らせていただきましたが、最近になって指導している場面が、実は指導されている場面だったと気付かされております。

2年前に退官してからは、埼玉田島剣友会を中心に活動させていただいておりますが、こちらは、大学時代の恩師である津村耕作先生が始められた剣友会で、50年以上の歴史があります。

今、まさに指導者として修行の途中であります。10歳で始めた剣道を50年以上も続けるとは思っても見ませんでした。剣道の楽しさを伝えるために、竹刀が持てなくなるまで修行を続けるつもりです。

ヨーロッパ杖道選手権大会 にて

杖道部 上田 花代子

令和7年9月26日（金）から28日（日）までの3日間、ポーランド南西部に位置するジェロナ・グラにおいて、第23回ヨーロッパ杖道選手権大会ならびに講習会・審査会が開催されました。私は全日本剣道連盟の派遣団の一員として参加し、ヨーロッパ各国の選手や指導者の熱意、そして技量の高まりを肌で感じる貴重な機会となりました。



会場となったジェロナ・グラ大学スポーツホールは1125㎡の広さを誇り、三つの試合場を設けても十分な余裕がある立派な施設でした。参加者は22か国207名（男性147名・女性60名）に及び、国際大会としての規模と活気を強く感じました。講習会では各国の選手が真剣に学び合い、試合では国を代表する選手たちが団結して戦う姿が印象的でした。

日本の全日本杖道大会では個人戦形式が中心ですが、ヨーロッパ大会では団体戦も実施されており、国を挙げての応援や一体感が生まれ、会場全体が大きな盛り上がり包まれていました。埼玉県杖道大会でも個人戦・団体戦を実施していますが、ヨーロッパの団体戦は国際色豊かで、各国の特色が表れる点が非常に興味深いものでした。

私は約20年前からヨーロッパの杖友の招きにより指導に携わってきましたが、今回の大会では特に三段以下の選手の技量向上が顕著で、日頃の講習会の積み重ねが確実に成果として表れていることを強く実感しました。ヨーロッパでは国を越えて講習会が頻繁に開催されており、互いに学び合う文化が根付いていることが、技術向上の大きな要因となっているように感じます。

審査会は初段から七段まで実施され、初段～五段の合格率は90%を超える高い水準でした。さらに六段2名、七段1名の新たな高段者が誕生し、ヨーロッパにおける杖道の裾野の広がりや質の向上を改めて確認する結果となりました。国内外を問わず、正しい稽古と継続的な研鑽が確実に実を結ぶことを再認識いたしました。

また、大会運営では電算システムが大変充実しており、各試合場に設置された大型モニターには選手の顔写真や試合結果がリアルタイムで表示され、観客にも分かりやすく、会場の雰囲気大いに盛り上げていました。これらのシステムは各国のエンジニアが長年協力して構築したものであり、ヨーロッパの剣道界の組織力と技術力の高さを感じさせるものでした。

最後に、ヨーロッパでは剣道・居合道・杖道の選手権大会が毎年持ち回りで開催されているほか、剣道形の大会も実施されています。こうした多様な取り組みが、武道文化の継承と発展に大きく寄与していることを付記し、今回の海外杖道事情の報告といたします。



生涯剣道人を訪ねて

寄居剣道連盟 雨宮 正一



Q1 いつ頃、何歳から剣道を始められましたか

私は今年の4月で満88歳になりました。剣道は鉢形中学を卒業し熊谷農業高校に入学した1年生の時に始めましたので15歳からになります。

Q2 剣道を始めたきっかけは何ですか

中学時代は、農家で貧しかったせいもありますが、やせっぽちで体力に自信がありませんでした。もう死んでもいいやと思っていたところ、剣道場から激しく竹刀の打ち合う音が聞こえてきました。これなら体力が付くかなと思い意を決して剣道場を見に行き入部しました。高校2年の時に警察OBの梅澤照義先生が剣道の指導に見えるようになりました。毎日の猛稽古で力を付け県大会でベスト8になりました。

また、長距離走も1年の時に学年16位になり自信が付きました。3年時には剣道の猛稽古もあり学年1位になり駅伝の代表に選出されました。

Q3 剣道を長年続けられている秘訣は何ですか

体が弱く何時も死ぬことばかり考えていたので、剣道を通じて不動心を養えたことだと思います。また何事にも夢中になる性格で、長距離走と共に高校卒業後も地元警察署の道場で稽古を続けました。

Q4 稽古は週何日くらいされていますか

今は川本トレーニングセンターで週1回、アタゴ記念体育館で月1回、埼玉県高齢剣友会の月1回の定例稽古に参加しています。また剣道修行のためと思い①自宅近くの愛宕山の除草②毎朝ストレッチ30分素振り10本③鉢形城公園史跡手入れ管理⑤家庭菜園などを行っています。

Q5 稽古で気を付けていることは何ですか

とにかく怪我をしないように無理のない稽古を心がけています。埼玉県高齢剣友会の稽古も面を付けて何人かにお願いし。その後は元立ちの先生方や8段の先生の立ち合いの見取り稽古です。

Q6 今まで剣道に関わった中でよい思い出は何ですか

私は埼玉県高齢剣友会第3代会長を勤めましたが、会長になった途端の平成26年第36回全日本高齢者武道大会団体戦で準優勝したことが一番の思い出です。また、剣道と両輪で続けてきた長距離走で飯能奥武蔵駅伝や埼玉駅伝に寄居陸協の一員として活躍できたことです。

Q7 好きな言葉（座右の銘）好きな食べ物は何ですか

「中庸」「人は変わらぬ我を変えよ」「なるようになるさ」（良寛）好きな人物、「島津義弘」「真田幸村」。好きな食べ物は以前は「そば」。今は食欲もなくなりました。

Q8 その他

農家の長男として高校卒業後は家業の農業と養豚に専念してきました。全国品評会ヨークシャ種未經産の部では日本一を取りましたが、34歳で一念発起し分家、タイル工になりました。剣道で培った集中力が功を奏し一級技能士を取得、タイル組合の支部長にも任命されました。消防団団長や剣道連盟事務局長、寄居警察嘱託教師など地元剣道や地域発展の為に尽くしてきたつもりです。希望を失った人生が剣道によって生きながらえることができました。感謝してもしきれません。これからも微力ではありますが利他の気持ちで尽くしたいと思っています。

ありがとうございました。

範士受称にあたって

浦和剣道連盟 神山 芳男

令和8年5月の剣道称号審査において、剣道範士の称号を受領させていただきました。これも偏に、栗原会長はじめ埼玉県剣道連盟の諸先生、先輩及び剣友の皆様のご支援の賜物と深く感謝し厚く御礼申し上げます。

範士合格の知らせを話聞いたのは、自宅で部屋の掃除をしている時でした、ある先生から、「範士合格おめでとうございます」の電話を頂戴し、半信半疑で全日本剣道連盟のホームページを見て、「え、私が合格している」と初めて本当に合格したのだと心臓がドキドキするのを感じました。

この年齢で範士の称号を頂き身に余る光栄と感謝おります、改めて範士称号の付与基準を見るとその重さを感じ身が引き締められました。

今思えば、継続は力なりと思います。小学5年生で初めて竹刀を持ちなんとなく稽古を続けておりましたが、警察で剣道特錬員として基本をしっかり見直しながら埼玉県剣道連盟の稽古会、各地の稽古会で多くの先生方、諸先輩及び剣友のご指導を頂き、ひたすら稽古に励んだことが今の自分を育ててくれたと感じております。

これからは、少年剣士や地域の剣道に貢献し範士の称号に恥じないように、粒粒辛苦の気持ちをもって真剣に修業に精進して行きたいと思います。



範士受称 感謝申し上げます

杖道部 上田 花代子



このたび、埼玉県剣道連盟のご推薦を賜り、公益財団法人全日本剣道連盟より杖道範士の称号を拝受いたしました。身に余る光栄に、身の引き締まる思いでございます。

この栄誉を賜りましたのは、埼玉県剣道連盟の先生方より多大なるご指導と、杖道に対する深いご理解をいただき、平成十三年に杖道部を下部団体としてお認めいただいたことに始まります。以来、多くの会員の皆様に指導の機会をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

十二歳で剣道を始め、十八歳の後半より杖道を学び始めました。二道とも週二回の稽古を続ける日々を過ごし、杖道の師から「杖道は剣道の近道だぞ」と教えをいただきましたが、このたびは「先生、私には剣道が杖道の近道となりました」と、亡き師の墓前に報告してまいりました。

竹刀を握る手の内、剣道形で木刀を握る手の内、姿勢、発声、いずれも剣道の稽古で養ったものが、私の基礎を築いてくれました。剣道に深く感謝致しております。

また、杖道部の杖友の皆様にも心より御礼申し上げます。今後は称号の重責を胸に、なお一層精進し、微力ながら杖道の普及・発展に尽力してまいります。

どうぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、改めまして心より深く感謝申し上げます。

八段昇段にあたって

北本剣道連盟 渡會 秀一



この度、5月1日、京都にて14回目の挑戦で剣道八段に合格させていただきました。ご指導いただいた先生方、埼玉県剣道連盟、道場、剣友、家族の支えに深く感謝申し上げます。

私は転勤族の会社員として、剣道一筋ではない時期もありましたが、子供たちが剣道を始めたことを機に再び竹刀を握り、50歳で七段、そして「60歳で八段を」と決意して挑戦を続けました。

振り返ると、二次審査で敗れた原因は技術以上に「心の動き」でした。初太刀で有効打が出ると、「いける」という欲が生まれ、慎重になりすぎたり、逆に力んでしまったりする。相手を観察し過ぎて無心さを失い、一本を求める気持ちが強くなるほど、技は冴えを失いました。面を打ちながら途中で迷い、強引になり、あるいは考え過ぎて攻めが止まる。まさに、自分の心に敗れていたのだと思います。

10回目頃からは「力みを取る」ことを意識しましたが、今度は握りが弱くなり竹刀を落とす失敗も経験しました。小手先で整えようとするほど、本来の気魄が薄れていたのだと思います。

そして14回目、審査前日に師である 範士 田中宏明 先生（解脱錬心館館長）より「先攻め・全身全霊」とご指導いただきました。結果を求める心や小手先の駆け引きを捨て、「無心」で立ち会う覚悟を決めました。ようやく、自分の剣道で審査に臨めた気がいたします。

八段合格は到達点ではなく、新たな修行の出発点です。今後も基本を忘れず、謙虚に学び続けてまいります。

剣道四・五段審査会（寸評）

審査委員長 大澤 規男

大宮武道館において7月4日（土）剣道四・五段審査会が実施されました。今回の合格率は、四段が45.8%、五段が42.4%と高い合格率となりました。ただ、再審者が各段位で五名出たことは少々残念でなりません。審査を拝見し感じたところを申し上げます。剣道段位級位審査にはそれぞれの基準があります。四、五段の基準のひとつに、四段は、「気位と迫力のある攻め」五段は「五段としての風格」とあります。気位とは、鍛錬を積み重ねたことによって得られた自信から生まれる威力、威風で、これが自然と感じられるものでないと基準に達しません。それには、礼法から三步進み蹲踞まで、お相手を尊敬する気持ち及び自己の心を丹田にずっと落としながら覚悟を決めて座る。立ち上がったら一眼二足三胆四力の教えの通り、一眼（洞察力）二足（攻め）三胆（覚悟）四力（打ち切る）の順で時間内を集中することが大切です。審査を拝見して感じる場所は、攻めからの打突です。ただ前に出ることが攻め、間合いを詰めれば攻めと思っている受審者が見受けられます。攻めとは、相手が脅威を感じるように仕掛けることです。三殺法では、「気を殺す、剣を殺す、技を殺す」とあるように、相手の心を動かすものです。先の気位で打つぞ、突くぞという気が充実して、足で攻め、相手の気が十分であれば技を出さない（溜める）、相手が技を出して来たら出ばな、または応じ技で打ち切ることが重要です。普段の稽古で先生方に、「一人で、または、自分勝手に技を出していますよ」と言われた方もおられると思います。これなどは、一眼の洞察力（相手の心を探る）を無視し、自分が打突する準備ができた、または、中結まで間合いに入ったから打突するという稽古をされている方です。剣道は、初段から八段までありますが、技から心の剣道に段階を追って修行していきます。四、五段はまさに技から心の剣道に入らないと六段、七段、八段へ繋げていけません。先生方の益々のご精進をご期待申し上げます。

令和8年大会記録(1月～7月)

—全国大会—

○第74回全日本都道府県対抗剣道優勝大会 (R 8.4.29 和歌山ビッグホール)

- 1 回戦 長崎県 2-1
2 回戦 長野県 5-1
3 回戦 兵庫県 1-2

○全日本高齢者武道大会 (R 8.6.8 日本武道館)

寿A 2位 福田 健治
寿B 2位 渡辺 秀男
B組 2位 関口 啓一

○第18回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会 (R 8.7.12 日本武道館)

- 2 回戦 新潟県 2-2 (本数勝)
3 回戦 広島県 5-1
4 回戦 熊本県 2-2 (本数負)
優秀選手賞 中嶋 カオル(川口)

—関東大会—

○第72回関東高等学校剣道大会 (R 8.6.12~14 栃木県宇都宮市)

男子個人 3位 酒井 新太(本庄第一)
女子個人 3位 佐々木瑠真(星野)
男子団体 3位 本庄第一
女子団体 3位 星野

—全国大会予選—

○第74回全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会 (R 8.2.23)

- 先鋒 北脇 大翔(山村学園) 高体連推薦
次鋒 井上 倭(西入間)
五将 泉 英太(北本)
中堅 泉 和毅(高校)
三将 伊藤 勇太(警察)
副将 橋本 桂一(東松山)
大将 井口 清(飯能)

○第38回全国健康福祉剣道交流大会県予選会 (R 8.3.1)

- ・60歳以上65歳未満の部
加藤 康幸(東松山) 上條 浩一(上尾)
徳村 忠(警察) 内野 保(所沢)
・65歳以上70歳未満の部
町田 進(秩父) 設楽 浩(高校)
今井 美行(秩父) 豊島 和(所沢)

- ・70歳以上の部
森田 英仁(加須) 立山 健治(朝霞)
川上 満(杉戸) 爲谷 昇(久喜)

○第18回全日本都道府県女子剣道大会予選会 (R 8.3.1)

- 先鋒 佐々木瑠真(星野) 高体連推薦
次鋒 中嶋カオル(川口)
五将 中村 日南(東松山)
中堅 志藤 綾子(東松山)
三将 渡會 愛梨(高校)
副将 荒井 貴子(久喜)
大将 村山 千夏(警察)

○第67回全国教職員剣道優勝大会予選会 (リプロ武道館)

- (R 8.5.16)
義務教育の部 翠川 洋平(川口西中)
高大教委の部 志良堂有将(浦和学院高)
副将の部 藤林 洋平(志木高)
大将の部 船水 学(平成国際大)
女子の部 井上夢希乃(さいたま桜高等学園)
男子個人戦 翠川 洋平(川口西中)
団体戦出場 泉 和毅(川口北高)

○第79回国民スポーツ大会成年の部予選会(大宮武道館) (R 8.5.23)

- 男子 先鋒 田畑 政樹(警察)
次鋒 橋本 慎治(警察)
中堅 平野伸一郎(警察)
副将 橋本 桂一(東松山)
大将 菊地 博之(警察)
女子 先鋒 小川梨々香(東松山)
中堅 志藤 綾子(東松山)
大将 村山 千夏(警察)

○定通剣道高校総体兼全国大会予選 (R 8.5.17)

- 男子 1位 川合 陽彩(大川学園)
2位 奥泉 鳳馨(戸田翔陽)
3位 宮崎 由毅(大宮中央)
3位 黒沢真己人(大川学園)
女子 1位 奥 香恵(大宮中央)
2位 渡部 優奈(大川学園)
3位 小池 美桜(戸田翔陽)

○全国高等学校剣道大会県予選会 (男女個人:1・2位が全国大会出場) (R 8.6.19)

- 男子個人
1位 酒井 新太(本庄第一)
2位 長岡 律生(本庄第一)
3位 鈴木 陽(城北埼玉)
3位 高梨 裕生(松山)

・女子個人 (R 8.6.23)

- 1位 樋口優衣奈(星野)
2位 佐々木瑠真(星野)
3位 江田 彩春(星野)
3位 小森谷伽朋(淑徳与野)

○全国高等学校剣道大会県予選会 (男子団体:1位が全国大会出場) (R 8.6.23)

- 1位 本庄第一 2位 山村学園
3位 川口市立 3位 城北埼玉

○全国高等学校剣道大会県予選会 (女子団体:1位が全国大会出場) (R 8.6.23)

- 1位 星野 2位 山村学園
3位 深谷第一 3位 春日部女子

○国スポ少年男女 最終選考会(リプロ武道館) (R 8.6.27)

- 男子 山崎 貫太(山村学園)
長岡 律生(本庄第一)
鈴木 陽(城北埼玉)
北脇 大翔(山村学園)
酒井 新太(本庄第一)
女子 佐々木瑠真(星野)
北村 美緑(星野)
浦野 葵衣(星野)
江田 彩春(星野)
樋口優衣奈(星野)

○全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会予選会(5名が本大会出場) (R 8.7.20)

- 1位 千葉 政臣(川口)
2位 録澤 奏佑(北本)
3位 今瀧 立葵(越谷)
3位 宮崎 陽也(狭山)
5位 小林 謙吾(北本)

○第74回 埼玉県中学校総合体育大会兼全 国・関東大会予選 (R 8.7.22・23)

- ・男子団体
1位 北本 2位 城北埼玉
3位 大沼 3位 瀬崎
5位 妻沼東 5位 朝霞第二

・女子団体

- 1位 朝霞第三 2位 本庄第一
3位 大沼 3位 北本
5位 皆野 5位 朝霞第一

・男子個人

- 1位 石井 明(北本)
2位 城戸 蒼大(城北埼玉)
3位 福島 誓(初雁)
3位 渡邊 碧(安行)

・女子個人

- 1位 飯塚 美結(朝霞第三)
2位 二上 葉奈(朝霞第三)
3位 今瀧夕輝乃(大沼)
3位 飯岡 沙月(朝霞第三)

—関東大会予選—

○関東高校剣道大会予選会 男女個人 (R 8.5.1)

- 男子 1位 関 日向(川口市立)
2位 酒井 新太(本庄第一)
3位 和藤慎之介(川越)
4位 高田 一仁(久喜北陽)
女子 1位 佐々木瑠真(星野)
2位 浦野 葵衣(星野)
3位 淡路ひかり(昌平)
4位 小林 希寧(春日部女子)

○関東高校剣道大会予選会 男子団体 (R 8.5.9)

- 1位 山村学園 2位 本庄第一
3位 城北埼玉 4位 立教新座
5位 松山 5位 深谷第一
5位 川口市立

○関東高校剣道大会予選会 女子団体 (R 8.5.10)

- 1位 星野 2位 本庄第一
3位 深谷第一 3位 川口市立
5位 淑徳与野 5位 昌平
5位 山村学園

—県内大会—

○第35回埼玉剣道高齢者剣道大会(リプロ武道館) (R 8.6.15)

- ・75歳以上の部
1位 立山 健治(朝霞)
2位 渡辺 秀男(東松山)
3位 久保 和秀(西入間)
3位 大河原徳雄(狭山)

- ・70歳以上～75歳未満の部
1位 中山 良彦(熊谷)
2位 狩野 清志(熊谷)
3位 兵庫 正彦(東入間)
3位 荒川 良一(入間)

- ・65歳以上～70歳未満の部
1位 赤岩 伸洋(本庄)
2位 高橋 正陽(久喜)
3位 上村紳一郎(朝霞)
3位 佐々木 幸(羽生)

- ・60歳以上～65歳未満の部
1位 山下 克巳(東松山)
2位 横田 博(浦和)
3位 小川 明巳(川口)
3位 森川 正浩(久喜)

○第14回 埼玉県杖道大会(リプロ武道館) (R 8.7.20)

- 初段以下 1位 鈴木 蘭(浦和杖道会)
2段 1位 横森 紗名(浦和杖道会)
3段 1位 内野 寛俊(浦和杖道会)
4段 1位 飯田 篤功(彩杖会)
5段 1位 今枝 大輔(浦和杖道会)
団体戦 1位 凜清会

称号・段位取得者一覧（令和8年2月～7月）

編集後記

編集後記
 剣風26号に、剣道、杖道の範士号拝受を筆頭に剣道八段合格等会員の皆様のご活躍や足跡を記載できる事は喜ばしい事です。剣風が生涯にわたり各道を追求される会員の皆様に少しでもお役に立てればと思います。本号では新たな試みとして、7月の四・五段審査の寸評を寄稿していただきました。四・五段を目指す方々の日々の稽古を見直す足がかりになれば幸いです。
 (大河原直弘)

会計部より（県大会のプログラム・旅費・お弁当について）

1. プログラム受付について **※新人は2種類のプログラム**

(1) **剣道専門部プログラム（団体戦・個人戦合冊）**

10月22日（団体）は、顧問の先生に団体登録されている選手の分をお渡しします。
2階（館内、階段付近）のプログラム受付にお越しください。

登録選手は1冊400円で廉価頒布。登録選手数分のご購入をお願いします。

※ 審判・役員の先生方は、審判・役員受付でお渡しします。

※ 顧問・保護者分などは、1冊600円での一般販売です。

部数がなくなり次第、販売を終了しますので、あらかじめご了承ください。

(2) **剣道連盟プログラム（個人戦）**

10月23日（男女個人）に、選手に各試合場で渡します。学校分や一般販売はありません。

2. 審判・役員 旅費について

生徒引率のない先生方には専門部から旅費を支給します。

審判・役員受付で、領収書に必要事項を記入し、押印をお願いします。

会計規定上サイン不可のため、印鑑忘れの場合は支給できません。

3. 審判・役員のお弁当 お弁当ひとつ 800円（お茶付き 領収書は発給できません。）

【22日（団体）】

お弁当が必要な先生方は、下記の入力フォームにて事前にお申込みください。

10月15日（木）までにご入力ください。完全事前申し込みで行わせて頂きます。当日の確実な買取をよろしくお願いいたします。審判・役員受付にて当日現金でお支払いください。

※代表者会議に出席していない役員、審判員の先生方への連絡も、各部部長・地区理事・地区委員長の先生方からアナウンスをお願いします。

URL : <https://forms.cloud.microsoft/r/AI4uHKxQgz>



【10月23日（男女個人）】

審判・役員の先生方の分はご用意しますので、朝の受付時に食券をお受け取りください。

記録報道部 専門委員長会議 資料

埼玉県中体連剣道専門部

①記録報道部の活動内容

(1)公式戦の記録報道について

- ・HP での大会案内、代表者会議資料、大会速報、大会結果の集約ならびに HP へのアップ
- ・代表者会議にて組み合わせのプロジェクター投影・作成
- ・試合記録用紙の作成・保管
- ・関係各所への試合結果・記録等の送付

(2)専門部の所連絡に関する報道

- ・専門委員長会議の資料や派遣文書の専門部専用ページへの掲載
- ・各種のお問い合わせ（稽古会や講習会）の HP 上での告知

(3)各種情報を HP 上で提供

- ・練成会の開催可否、中止案内等
- ・剣道連盟からの連絡事項等の掲載

大会・講習会・練成会等に関する注意事項や中止連絡は HP 上で行いますので定期的にご確認ください。

オーダー表のテンプレートは HP に公開しております。ご活用下さい。

②代表者会議資料・組み合わせの配布について

(1)各種資料の配布について

- ・HP にて大会案内、代表者会議資料、大会速報、大会結果を掲載します。
- ・以下の QR コードを読み取っていただくと、各種資料ならびに組み合わせ速報をご覧いただけます。



新人体育大会兼県民総合スポーツ大会実施要項

1. 日 時 令和8年10月22日(木) 男女団体戦 8試合場

◇日程

会場役員 集合・入館 8:00
選手入場、受付(顧問・審判員)、検定開始 8:30~
選手準備運動・審判会議・受付終了予定 ~9:40
開会式 9:50
試合 女子ベスト8 (20分×5試合=100分)
男子ベスト8 (20分×5試合=100分)
男女準々決勝 (8試合場一斉 準備でき次第 25分)
男女準決勝 (4試合場一斉 紹介アナウンス有 25分)
男女決勝 (2試合場一斉 紹介アナウンス有 25分)
閉会式予定 15:00
退館 15:30

2. 主 催 埼玉県教育委員会・埼玉県中学校体育連盟

3. 後 援 公益財団法人埼玉県スポーツ協会

4. 場 所 リプロ武道館

5. 試合規則 全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則・運営要領」及び、「日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項」・「埼玉県県大会、監督・審判打ち合わせ事項」「埼玉県中体連剣道専門部申し合わせ事項」に則る。

6. 試合方法 <団体戦>男女ともにトーナメント戦とする。順位決定戦は行わない。

7. 参加者数 (1) 各地区予選通過チームとし、団体戦は男女ともに48チームとする。
(2) 競技参加人数は、団体戦は男女とも、監督(部活動指導員も可)1名・選手5名・補員2名の計8名以内とする。
(3) 外部指導者については中体連専門部申し合わせで定める。

8. 代表者会議 令和8年10月13日(火) リプロ武道館(第2道場)
抽選・組み合わせについて、学校総合体育大会のベスト8をシードとし、シード校が予選で敗退した場合、その学校のある予選地区にシード権を与える。ベスト8のシード枠は抽選前にトーナメント表に表記する。
※同一予選母体から複数シード校が出場する場合、同一ブロックにならないよう配慮する。ただし、準決勝以上の組み合わせについては、その限りではない。
※さいたま市から9校以上出場の場合、初戦での対戦にならないよう配慮する。

9. 表 彰

種目別	優 勝	準 優 勝	第 3 位
団 体	カップ2個、賞状	賞状	賞状

※埼玉県剣道連盟より優勝~5位まで賞状

10. その他 「参加要項・全日本剣道連盟試合・審判規則及び細則、埼玉県中学校体育連盟剣道専門部申し合わせ事項」を熟読の上、円滑な大会運営に御協力をお願いします。

第48回埼玉県剣道大会（中学校の部）実施要項

1. 日 時 男女個人戦 令和8年10月23日（金） 8試合場

◇日程

会場役員 集合・入館	8:00
選手入場、受付（顧問・審判員）、検定開始	8:30～
選手準備運動・審判会議・受付終了予定	～9:40
開始式	9:50
試合 女子ベスト32（5分×20試合＝100分）	
男子ベスト32（5分×20試合＝100分）	
男女ベスト8（5分×6試合＝30分）	
男女準々決勝（8試合場 準備でき次第 開始アナウンスなし 5分）	
男女準決勝（4試合場一斉 紹介アナウンス有 5分）	
男女決勝（2試合場一斉 紹介アナウンス有 5分）	
終了式予定	15:00
退館	15:30

2. 主 催 埼玉県教育委員会・埼玉県中学校体育連盟・（公財）埼玉県剣道連盟

3. 後 援 公益財団法人埼玉県スポーツ協会

4. 場 所 リプロ武道館

5. 試合規則 全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則・運営要領」及び、「日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項」・「埼玉県県大会、監督・審判打ち合わせ事項」・「埼玉県中体連剣道専門部申し合わせ事項」に則る。

6. 試合方法 <個人戦>男女ともにトーナメント戦とする。順位決定戦は行わない。

7. 参加者数 （1）各地区予選通過者とし、男女ともに192名とする。
（2）個人戦の参加者には、監督または部活動指導員1名をつける。
（3）外部指導者については中体連専門部申し合わせで定める。

8. 代表者会議 令和8年10月13日（火） リプロ武道館（第2道場）
強化対策委員会で責任をもって組み合わせを行う。

9. 表 彰

種目別	優 勝	準 優 勝	第 3 位
個 人	賞状、メダル	賞状	賞状

※埼玉県剣道連盟より優勝～5位まで賞状、トロフィー

10. その他 「参加要項・全日本剣道連盟試合・審判規則及び細則、埼玉県中学校体育連盟剣道専門部申し合わせ事項」を熟読の上、円滑な大会運営に御協力をお願いします。

埼玉県剣道大会参加要項

1. 監督・部活動指導員・外部指導者の服装について

- (1) 服装は、以下のようにする。
学校総合体育：白色（無地）半袖ワイシャツ・グレー（無地）ズボン・エンジのネクタイ・紺色の靴下
新人体育大会：ブレザー（紺）、白色（無地）ワイシャツ・グレー（無地）ズボン・エンジのネクタイ・紺色の靴下
- (2) 試合場への時計の持ち込みは禁止する。（腕時計は身につけない。）
- (3) 既定の服装でない場合、会場への出入りを制限させていただくこともあります。部活動指導員や外部指導者の先生方へも服装については必ずご周知ください。

2. 選手の服装について

- (1) 開会式、閉会式の服装は、剣道着・袴に胴・垂れをつける。
- (2) 選手の剣道着・袴は、黒色・紺色または白色が望ましい。道場連盟のワッペン等はつけない。
- (3) 垂れにつける布製の名札は、黒または、紺地に白字で所属名・姓を明記すること。中学校の場合は必ず「〇〇中」と表記し、「中」を含む通称も可とする。また、同姓の場合は、必ず「名」を明記すること。
- (4) 防具における面紐・胴紐などは、紺色または紫色が望ましい。

3. 試合場について

- (1) 役員・審判員・監督・選手・補助員・登録された外部指導者・部活動指導員以外は、試合場（メインアリーナ1階）へ入れない。外部指導者・部活動指導員は、IDカードをつけて入場する。IDカードをつけていない場合には、試合場への出入りはできない。
- (2) 試合場内での監督・部活動指導員・選手は指定された場所に座る。
- (3) 外部指導者は指定された場所にて観戦する。

4. 観戦・応援について

- (1) 応援は拍手のみとし、監督・選手のサインや声援は禁止とする。
- (2) 先鋒戦・大将戦は、監督・選手ともに正座する。
- (3) 会場内（競技場・観客席）への応援旗・激励旗の持ち込みは禁止する。

5. 竹刀について

- (1) 次の基準による。

	性別		中学生
長さ	男女共通		114センチメートル以下
重さ	男性		440グラム以上
	女性		400グラム以上
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上

- (2) 竹刀先革の長さは、50ミリメートル以上とする。
- (3) 中結の位置は、剣先から全長の約4分の1とする。
- (4) 竹刀の基準は細則第2条、規則第3条により上記表のとおりとする。四つ割りの竹の合わせに大きな隙間のあるものや安全性を著しく損なう加工、形状変更をしたものを使用してはならない。
- (5) 大会前に必ず竹刀を手入れする。検量の際の取り違いを防ぐために「柄に所属名と名前」を記入する。

6. つばについて

- (1) つばについては革色のもの（白色も可）を使用する。それ以外のものを使用している場合は、その場で、つばあるいは竹刀全てを取り替えさせる。ただし、竹刀は検量に合格したものでなければならない。
- (2) つばの大きさは直径9センチ以下とし、竹刀に固定する。
- (3) リバーシブル鰐については、茶色面を上に向けて使用することで使用を認める。これら以外のものを使用した場合には、その場で指導し、替えさせる。弦の色の規定はありません。

7. サポーター・足へのテーピング・足袋・コルセットの使用について

本大会では使用の際の「届け」は不要とするが、足へのテーピングの色は「白・茶」とする。そのほか医療上必要と認められる場合に限り使用を認める。相手に危害を加えたり、公正さに欠けたりするものは使用しない。市販されているものを加工、改造したりしないで使用すること。

8. 竹刀検量と準備運動について

- (1) 竹刀検量はリプロ武道館の“1階ロビー”で、団体・個人戦ともに入館から開会式までを目安に行う。入館直後は女子を優先し、女子が終了後に男子を行う。各試合当日に必ず使用する竹刀を検定すること。団体戦と個人戦の両日で参加する場合は、前日の検定シールを剥がしておくこと。
- (2) 選手は竹刀検量を通していない竹刀を使つての準備運動・稽古を禁止とする。検量で竹刀が合格した選手から規定の時間・場所で行うものとする。また、竹刀等での場所取りは禁止とする。
- (3) 準備運動は団体戦・個人戦ともに、女子は開会式まで主道場で行い、男子は開会式の前後で第2道場を利用して行ってください。主道場、第2道場共に怪我のないように譲り合って使用すること。
- (4) 個人戦において、学校からの参加選手が1名のみの場合は準備運動の相手として、アップ要員1名を入館させ、規定の時間に決められた場所で練習を行っても構わない。ただし、アップ要員として入館した生徒は開会式以降、試合場（フロア）へは入れません。また、アップ要員が使用する竹刀は顧問が責任を持って竹刀検量と同等の確認すること。

9. 開会式・閉会式について

- (1) 開会式における監督・選手・審判員の整列隊形は、別紙「開会式の整列隊形」の通りとする。速やかに整列できるよう、選手への周知を徹底してください。
- (2) 開会式の選手宣誓は、団体戦では組み合わせ1番の学校の代表生徒1名、個人戦では組み合わせ1番の選手とする。また、選手宣誓は学年の代替わりを基準として男女を入れ替えて行うものとする。

年度	大会	団体戦	個人戦
7 (昨年度)	学総	女子	男子
	新人	女子	男子
8 (本年度)	学総	男子	女子
	新人	男子	女子
9 (次年度)	学総	女子	男子
	新人	女子	男子

- (3) 閉会式には団体戦・個人戦ともにベスト8以上の学校・選手が参加してください。

- (4) 次第

開会式	閉会式
1. 開会宣言 …副委員長	1. 成績発表および表彰
2. 挨拶 …部長・委員長	2. 講評 …審判長
3. 審判長注意 …審判長	3. 閉会宣言 …副委員長
4. 選手宣誓	

10. 試合の進行について

- (1) 2大会（学校総合、新人）とも、以下の順で進行する。

団体戦 「ベスト8→男女準々決勝→（学総のみ関東大会出場決定戦）→男女準決勝→男女決勝」

個人戦 「女子ベスト32→男子ベスト32→男女ベスト8→男女準々決勝→男女準決勝→

（学総のみ男女順位決定戦）→男女決勝」

※第1試合の開始は団体の挨拶、個人では正面の挨拶を本部アナウンスにより一斉に行い、選手は試合開始の合図を待つ。

※準決勝、決勝については「ただいまより〇〇戦を行います。学校名（読み上げる）、試合を開始してください」で開始する。決勝戦は開始前、終了後「正面に礼」を行う。

- (2) 団体戦では、次の試合のチームは後ろの待機場所で予め待機をする。前の試合の団体礼後、速やかに整列、団体礼を行う。監督はすぐに前列外側の監督席に座り、先鋒戦を開始する。先鋒戦が始まった後に、他の選手が荷物を前列へ移動させる。また“水筒”は試合場近くの壁際に置いておくこと。

- (3) 個人戦では、次の試合の選手は待機場所内に“予備の竹刀”を置き、前の試合が終わったら速やかに次の試合が始められるように準備をする。また“水筒”は試合場近くの壁際に置いておくこと。監督席は待機場所の外側とする。

1.1. 試合について

- (1) 若い番号を赤とし、紅白の目印は各校で持参する。
- (2) 監督は出場校勤務の校長・教員・指導員を原則とする。団体戦では1回戦から、個人戦ではベスト16以降の試合には監督が必ずつく。複数の選手等が勝ち上がり、自校の教員等が足りない場合には、原則その学校の教員等が同予選母体（いない場合には同東西南北さ地区）の教員等に、監督を依頼する。試合進行が止まらないように、予めお声がけいただき、全体でご協力ください。
- (3) オーダー表について
- ① オーダー表と提出用の封筒は埼玉県中体連剣道専門部HPのテンプレートを使用して作成する。用紙のサイズは「A4」で作成してください。サイズ間違いで受付を通った場合は、会場で監督が手書きで作成してください。
 - ② 団体戦では氏名の上に「先」「次」「中」「副」「大」を明記し、間違いのないようにする。選手がいないポジションについても白紙で作成する。選手は「黒字」、補員は「赤字」で作成する。オーダー表は提出用の封筒に入れて、受付で提出をしてください。学校名の短冊は専門部で用意します。
 - ③ 個人戦では男女とも氏名は「黒字」で作成し、上部にトーナメント表の選手番号を付する。その際、男子は「黒字」、女子は「赤字」で作成する。オーダー表は選手が試合会場に提出をしてください。
 - ④ 同姓の選手が出場する場合は、右下に「名」を記載する。オーダー表と垂れの名札は同じ漢字・氏名とすること。
- (4) 試合結果の掲示は審判部より提示された「掲示要領」に従う。

1.2. 選手変更について

- (1) 補員の起用については、参加申し込み用紙に記載してある補員のみとし、起用は下記によるものとする。
- ① 補員を起用する場合は、自チームの試合が行われる試合場の試合場主任に申し出て許可を得る。
 - ② 補員の起用は交替者の位置とし、オーダー変更と交替者の再出場は認めない。

1.3. 会場役員について

- (1) 競技役員については生徒に協力を依頼する。休憩等の交代も含めて6名以上（記録1名・計時1名・タイマー旗1名・掲示3名）とする。代表者会議で各地区より調整を行う。
- (2) 各試合場の役員席には、「審判主任（教員）・試合場主任（教員）・計時（生徒）・タイマー旗（生徒）・記録（生徒）・掲示担当（教員）」の6名が着く。

1.4. シード権について

（1）学校総合体育大会

団体戦： ~~新人体育大会のベスト8をシードとし、シード校が予選で敗退した場合、その学校のある予選地区にシード権を与える。ベスト8のシード枠は抽選前にトーナメント表に表記する。~~

個人戦： ~~強化対策委員会で責任をもって組み合わせを行う。~~

（2）新人体育大会

団体戦： 学校総合体育大会のベスト8をシードとし、シード校が予選で敗退した場合、その学校のある予選地区にシード権を与える。ベスト8のシード枠は抽選前にトーナメント表に表記する。

個人戦： 強化対策委員会で責任をもって組み合わせを行う。

※同一予選母体から複数シード校が出場する場合、同一ブロックにならないよう配慮する。ただし、準決勝以上の組み合わせについては、その限りではない。

※さいたま市から9校以上出場の場合、初戦での対戦にならないよう配慮する。

1.5. その他

- (1) 県大会の準備・運営・後片付けは専門部役員が中心となり、大会参加全顧問の協力により、実施するものである。各大会終了後、常任委員会を開き、大会の反省を話し合うとともに次行事への準備に当てる。

会場使用上の注意

1. 駐車場について

- ① リプロ武道館に隣接する水上公園の駐車場も使用可能です。満車の際の駐車場はありません。

2. 入館について

- ① 会場役員の生徒は1階正面入口より入場する。
- ② <団体戦>
選手・監督は2階玄関前に集合、規定の時間に学校ごとまとめて入館する。IDを着用する。
<個人戦>
選手・監督【校長・教員・部活動指導員（以下「指導員」）】・アップ要員は各学校まとめて2階玄関から入館する。選手IDがないので、各校監督が責任を持って、選手を入館させる。
<応援者・保護者等>
選手・監督入館後、2階玄関より各学校でまとめて入館する。
学校総合体育大会での応援者は原則2・3年生のみとさせていただきます。
新人体育大会での応援者は1・2年生のみとさせていただきます。
- ③ 1日目終了の際に防具等の荷物を館内に置いていくことは禁止です。必ず持ち帰ってください。
- ④ 貴重品の管理は各学校の責任で徹底して下さい。（盗難が多発しています）
- ⑤ 保護者を含めて「靴袋」を用意して下さい。裸足で外に出ない。（靴の取違い也多発しています）
館内のスリッパは使用できません。各自で準備をしてください。
- ⑥ 雨天時は、各校でビニール袋を用意し、傘などは各校でまとめて管理をしてください。くれぐれも館内をぬらさないようにご協力をお願いします。
- ⑦ 学校関係者以外の入館はお断りします。

3. 受付について

- ① 団体戦については、2階入口付近にて監督がオーダー表を封筒に入れて提出し、完了とする。
- ② 個人戦については、男女それぞれ規定の時間を目安に、各試合場へ選手本人がオーダー表（トーナメント表の番号を各自で記入したもの）を提出し、完了とする。
- ③ 外部指導者のIDは受付にて監督が受け取り外部指導者に配布する。外部指導者IDは退館の際に監督が預かり、受付の返却ボックスに返却をする。
- ④ 審判員・役員等の受付は1階の会議室付近にて行います。

4. 観戦・応援について

- ① 応援席は割り振り図の通り、各地区で譲り合って利用して下さい。責任者は副委員長、地区理事です。
- ② 選手・監督・部活動指導員・役員以外は試合会場となる主道場へは降りられません。
- ③ 応援は拍手のみとし、声を出しての声援やサインは禁止です。
- ④ 試合進行が止まらないように、全体でご協力ください。

5. 写真や動画の撮影について

- ① カメラのフラッシュを禁止する。携帯電話での撮影（ライト）についても充分留意する。
- ② 試合会場での撮影は禁止する。写真や動画の撮影は2階観覧席から行うこと。
- ③ 撮影した写真や動画は部活動の記録用としての使用用途とし、SNSやYouTube等のインターネットへのアップロードなどは禁止とする。

6. 女子の更衣について

- ① 新人戦では館内の第1道場（柔道場）または更衣室を使用して下さい。更衣後、荷物は全てメインアリーナ観覧席に移動して下さい。

7. 昼食について

- ① 昼食時間は設けませんので、各校適時にとって下さい。



団体戦 開会式 整列隊形48校(新人)

※令和8年度の団体戦では男子が選手宣誓のため、男子が前に整列します。

ステージ

監督は各試合場の線を基準に整列をしてください。

審判員はステージと試合場の机との間に1列に並んでください。

第5試合場～第8試合場 審判員

第8試合場男子 第7試合場男子 第6試合場男子 第5試合場男子

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第4試合場

第6試合場男子 第5試合場男子

36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第3試合場

第4試合場男子 第3試合場男子

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第2試合場

第1試合場～第4試合場 審判員

第2試合場男子 第1試合場男子

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第1試合場

☆監督
◎主将
○選手

第8試合場女子 第7試合場女子

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第5試合場

第6試合場女子 第5試合場女子

36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第6試合場

第4試合場女子 第3試合場女子

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第7試合場

第2試合場女子 第1試合場女子

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第8試合場

個人戦 開会式 整列隊形192名(学総・新人)

※令和8年度の個人戦では女子が選手宣誓のため、女子が前に整列します。

ステージ

選手は各試合場の線を基準に整列をしてください。

審判員はステージと試合場の机との間に1列に並んでください。

第5試合場～第8試合場 審判員

第8試合場女子 第7試合場女子

185	177	169	161	153	145
186	178	170	162	154	146
187	179	171	163	155	147
188	180	172	164	156	148
189	181	173	165	157	149
190	182	174	166	158	150
191	183	175	167	159	151
192	184	176	168	160	152

第4試合場

第6試合場女子 第5試合場女子

137	129	121	113	105	97
138	130	122	114	106	98
139	131	123	115	107	99
140	132	124	116	108	100
141	133	125	117	109	101
142	134	126	118	110	102
143	135	127	119	111	103
144	136	128	120	112	104

第3試合場

第4試合場女子 第3試合場女子

89	81	73	65	57	49
90	82	74	66	58	50
91	83	75	67	59	51
92	84	76	68	60	52
93	85	77	69	61	53
94	86	78	70	62	54
95	87	79	71	63	55
96	88	80	72	64	56

第2試合場

第1試合場～第4試合場 審判員

第2試合場女子 第1試合場女子

41	33	25	17	9	1
42	34	26	18	10	2
43	35	27	19	11	3
44	36	28	20	12	4
45	37	29	21	13	5
46	38	30	22	14	6
47	39	31	23	15	7
48	40	32	24	16	8

第1試合場

第8試合場男子 第7試合場男子

185	177	169	161	153	145
186	178	170	162	154	146
187	179	171	163	155	147
188	180	172	164	156	148
189	181	173	165	157	149
190	182	174	166	158	150
191	183	175	167	159	151
192	184	176	168	160	152

第5試合場

第6試合場男子 第5試合場男子

137	129	121	113	105	97
138	130	122	114	106	98
139	131	123	115	107	99
140	132	124	116	108	100
141	133	125	117	109	101
142	134	126	118	110	102
143	135	127	119	111	103
144	136	128	120	112	104

第6試合場

第4試合場男子 第3試合場男子

89	81	73	65	57	49
90	82	74	66	58	50
91	83	75	67	59	51
92	84	76	68	60	52
93	85	77	69	61	53
94	86	78	70	62	54
95	87	79	71	63	55
96	88	80	72	64	56

第7試合場

第2試合場男子 第1試合場男子

41	33	25	17	9	1
42	34	26	18	10	2
43	35	27	19	11	3
44	36	28	20	12	4
45	37	29	21	13	5
46	38	30	22	14	6
47	39	31	23	15	7
48	40	32	24	16	8

第8試合場

正面ステージ

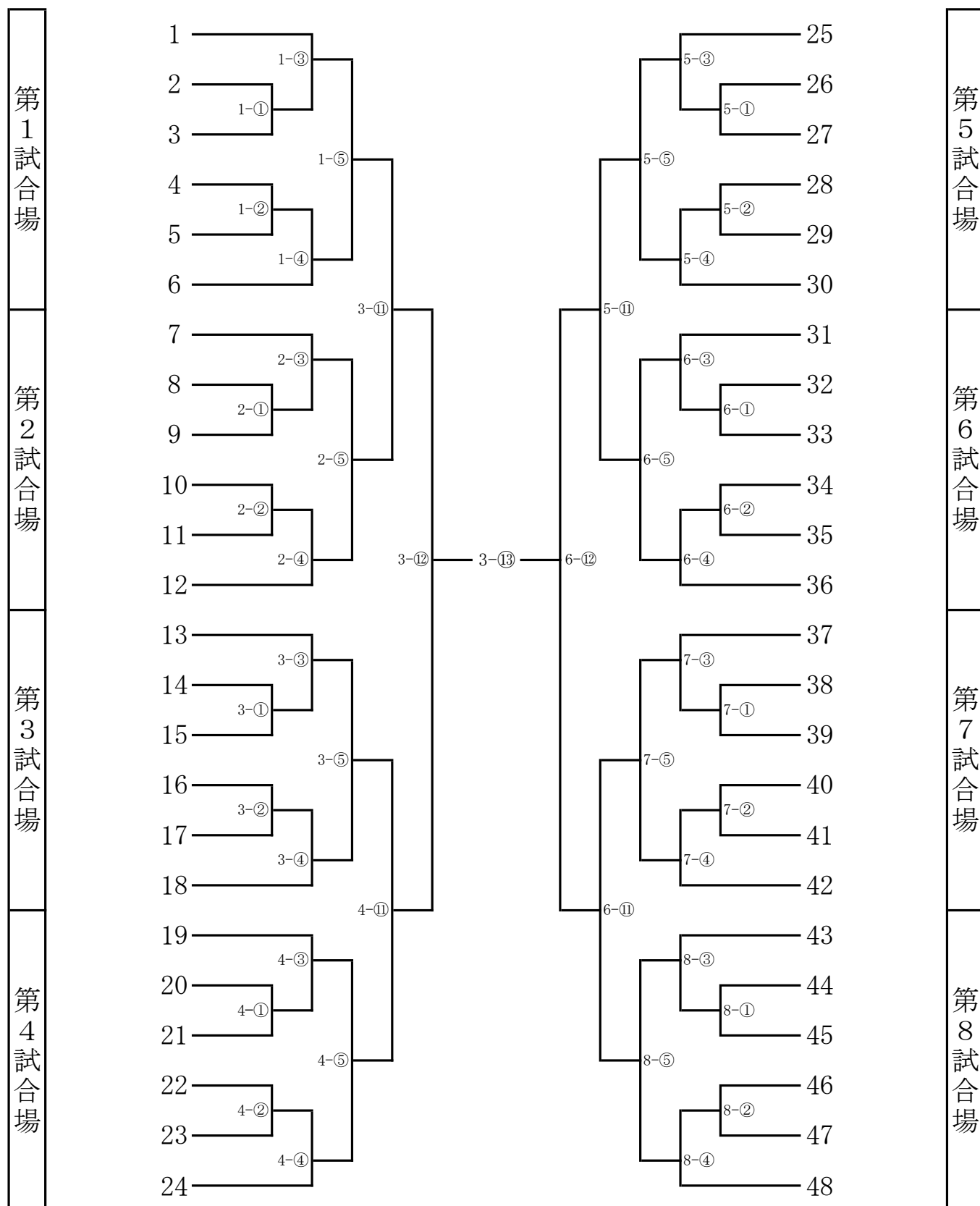
剣道 県大会

リプロ武道館 主道場・観客席割り振り図

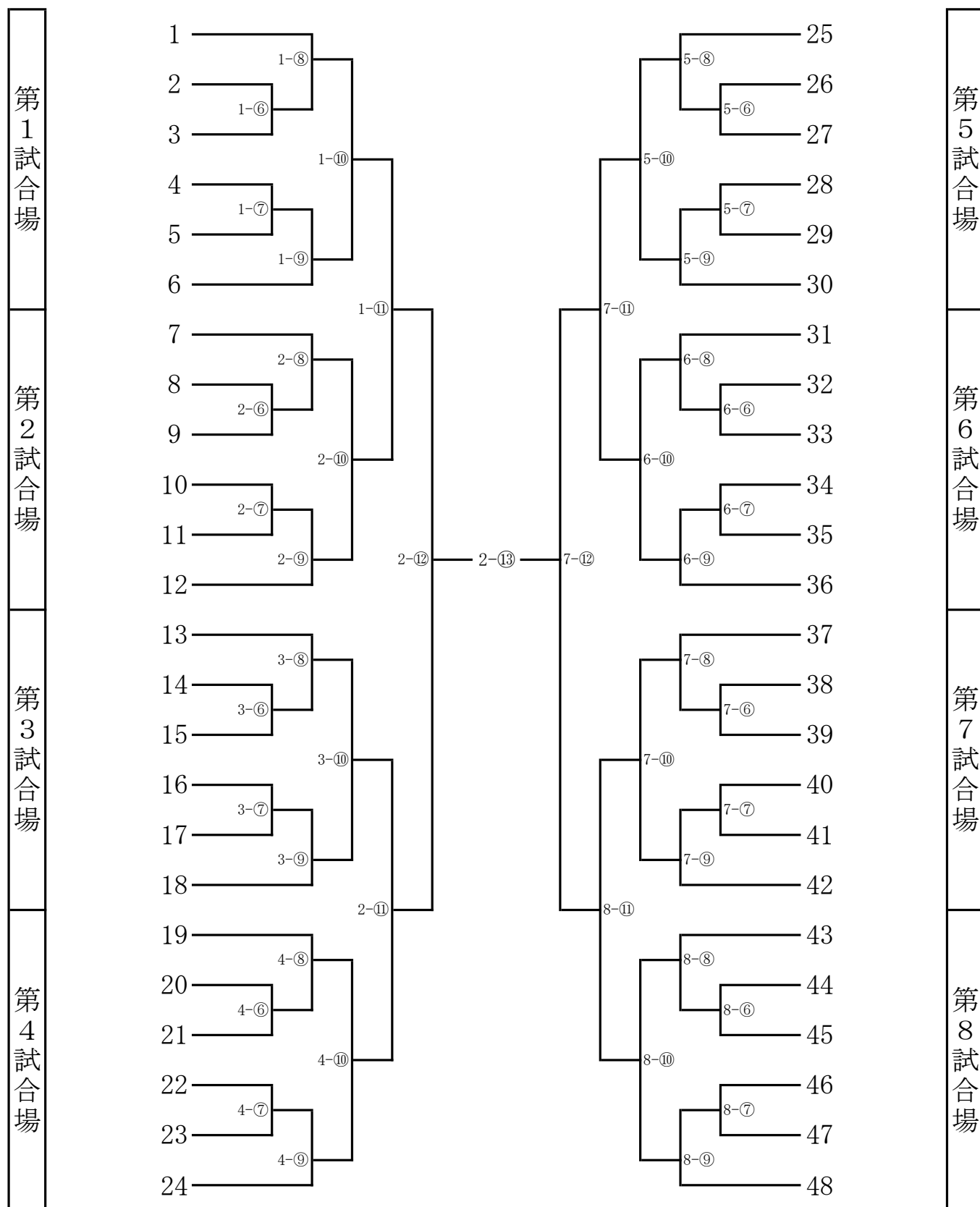
～令和7年度県大会出場定数の地区配当による～

応援席は予選地区ごとになります。
各地区で譲り合って使用してください。

令和8年度 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会 団体戦
【女子の部】



令和8年度 新人体育大会兼県民総合スポーツ大会 団体戦
【男子の部】



埼玉県中体連剣道専門部 審判部

R8 新人戦代表者会議資料

R8 学総 男女団体戦 反省

○審判について

- ・副審の立ち位置が、時に悪いことがある。副審2人が常に同じ方向からみようとしすぎていて、主審が回りそうな状況になる。状況によっては、主審と副審の2人で同じ方向から見ることもあって良いという意識が必要。
- ・機会、タイミングで一本にしてしまう傾向がある。打突の強度をちゃんと見ることを意識した方が良い。
- ・有効打突の見極め、反則の見極め良かった。・開始時の副審の位置（開始線の内側にいる）
- ・旗をあげるタイミング（機会であげてしまう場面が多い）・審判旗の持ちかた。
- ・こぶしが面に当たっていても反則にならない場面があった。
- ・有効打突については、よく見ていたが、すぐに上げないで、間をおいて上げる。
- ・相打ちの見極めを正しく行うために、常に立ち位置を意識してほしい。
- ・副審が一人上げて、主審・副審の反応がなかった。それぞれ見える位置に立つ。
- ・副審の位置どりが不十分（副審同士の間隔が広い）。二等辺三角形を意識し、有効打突を立ち止まって見極める必要性がある。
- ・鏢迫り合いの見極めはよかった。・残心まで見届けず、旗を上げてしまっているところがある。
- ・有効打突の見極めはよかった。試合者から遠くなってしまう。動きが遅い。
- ・有効打突の見極めについては、問題なかった。・逆胴の判定ができない。
- ・位置どり（特に切り込んでいくところ）が不十分なことが多かった。
- ・副審の立ち位置（位置どり）が遠い。
- ・副審が試合者について動いてしまい、主審が副審の位置まで来てしまうことが度々あった。
- ・後追いがよくできていた。
- ・副審があげた旗に残りの2人が無反応だった。（2人が見える位置をキープする）
- ・時間空費の判定が遅い。・鏢迫り合いの拳の位置が高い。
- ・鏢迫り合いになるかならないかの時に（成立していない）相手が一方的に下がった場合と成立した場合の判断の難しさがある。
- ・位置どりで動く際に素早く動こうと思い、小走りになる人がいたので、走らないで素早く動くようにする。

○試合について

- ・鏢迫り合いの反則は少なかった。・会場内で円陣をしている学校が多い。
- ・試合後の礼を合わせず、やり直しをさせる場面があった。
- ・鏢迫り合いから間合いを切らずに繰り返す選手がいた。
- ・面紐が長い選手がいた。・髪が長く、目印が見えないため、試合途中でつけ直した選手がいた。
- ・一本取った後に気分が悪くなった選手がいたため、その場で小休止をとった。
- ・目印が髪で隠れてしまっている選手がいた。・試合場主任との連携ができないところがあった。
- ・監督、選手の声援が気になった。一度注意しても、次の試合で再び注意するケースがあった。
- ・選手、観客の応援の態度が素晴らしかった。
- ・試合場内で試合者が足の指を切ってしまうことがあり、血のあとを拭いたが、血液なので手袋等あるか確認した方がよかった。

- ・旗を使っでの注意をしないようにする。
- ・面紐の結束位置の徹底をする。
- ・試合者が飲料水をベンチに持ってきている。 掲示が間違っていて指導した。

○大会運営について

- ・選手変更の書式があった方がいいかもしれないという話があった。
- ・チーム、掲示を逆にしてしまうことがあり、試合終了後に入れ替えるということがあった。
- ・時計系の指導。止めるべきところで止められていなかった。
- ・試合間の入れ替わりが遅いと感じた。
- ・いつもより、試合間がスムーズで、間延びする感じがなかった。
- ・冷房を効かせるため、1F ドアは閉めておく方が良いと思います。
- ・女子の面紐の結束位置が全体的に高い。
- ・写真屋が次の試合の選手の位置を再三指示していた。選手中心にする。
- ・時間がないなら順位決定と準決勝を同時にやってもいいと思う。

R8 学総 個人戦 反省

○審判について

- ・試合が長くなってしまった時の時間空費の取り方について、考える必要がある。
- ・位置どりもよく、反則の見極めもよくできていた。
- ・有効打突後、取得した選手を見る後追いができていない。開始線に戻るまでしっかり選手を見た方が良い。
- ・立ち位置が昨日よりもよかった。
- ・反則の見極めについては、まだ足りない。時間空費・不当な鏑迫り合いをもっと厳しく取るべきである。
- ・よく勉強されていると感じた。ただ、沢山の審判経験をする事で、移動がスムーズになったり、視点が定まってくる。たくさん経験を積んでいただければ。
- ・審判旗を持つ指が体側になるように。
- ・試合者の内側で二等辺三角形ができるように。
- ・位置どりの目的地を定めて、切り込むとスムーズ。
- ・主審はしっかりと試合者の真ん中に入ることを意識。副審はふくらみすぎ。
- ・旗の持ち方で、手の甲が前になってしまう先生が何人かいた。
- ・審判旗を振って歩く先生がいた。所作の確認をした方が良い。
- ・残心までに見極めが課題と感じた。
- ・副審だけでなく、主審の位置どりも重要だと感じた。
- ・一度上げたのに、下ろす方がいた。
- ・位置どりが遠い方がいる。
- ・鏑迫り合いのこぶしの位置の見極め。
- ・変形の構えに対する指導（時間空費も含めて）
- ・一本の見極め。後追いの見届けがよくできていた。

○試合について

- ・女子で髪が長く、目印が見えなくなっている。
- ・男子で目印のつけ忘れがあった。
- ・鏑迫り合いの位置が高い。

- ・女子の面紐の結束位置が高い。
- ・面紐が長い（40cmを超えている）選手が多かった。
- ・面紐が茶系の選手がいた。
- ・名札がずり落ちる選手が多かった。
- ・全体的に面紐が長い。結束位置も高い。

○大会運営について

- ・役員生徒が1Fで応援していた。（拍手）
- ・延長戦の回数表示があると良い。

埼玉県県大会、監督・審判打ち合わせ事項

※本大会は、(財)全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則・運営要領」及び「(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項」・「埼玉県県大会、監督・審判打ち合わせ事項」・「埼玉県中体連剣道専門部申し合わせ事項」に準じて行う。

1. 試合規則に関すること

- (1) 団体戦は、3分3本勝負、勝敗の決しない時は引き分けとする。
- (2) 個人戦は、3分3本勝負、勝敗の決しない時は、時間を区切って、勝敗の決するまで延長戦を行う。
- (3) 団体戦で、同勝者数、同本数になった場合は、任意の選手による代表者戦行う。
3分1本勝負。勝敗の決しない時は、延長戦を行う。延長戦は時間を区切って勝敗の決するまで行う。
【個人戦および団体戦代表戦での対応】(延長戦は2分ずつ区切る。)
試合時間3分 ⇒ 延長2分 ⇒ 延長2分 【小休止(深呼吸をする程度)】
⇒ 延長2分 ⇒ 延長2分 【面を外しての休息・給水(5分)】
⇒ 試合の続く限り繰り返す
- (4) 開始線は、中心より140cmの位置とする。
- (5) 「反則」は、規則に準じ厳格に取る。特に「公正を害する行為」「鏑迫り合い」「故意の時間の空費」等は、しっかりと見極める。
- (6) 「場外反則」については、厳格にとる。(ただし、1打突、1体当たりを原則とし、相手を不当に押し出した場合については、しっかりと見極める。)
- (7) 「変形の構え」等の防御姿勢を取った場合は、合議の上1回目は「指導」、2回目以降は「公正を害する行為」として「反則」とする。
- (8) 「突き」及び「片手打ち」は有効としない。特に故意に仕掛けるような「突き」は、「公正を害する行為」として反則とする。
- (9) 上段は執らせない。(隻腕についてはその都度協議する。)
- (10) 「場外」「竹刀を落とす」以外の「反則」については、「合議」の上、「宣告」する。なお、「反則」を取る場合については、「反則」の内容を選手に説明した後、「宣告」を行う。
- (11) 竹刀の検定を実施する。
 - ・竹刀は、男女とも長さ114cm(約3尺7寸)以内。重さは男子440g以上・女子400g以上とする。
 - ・先革の太さは、男子25mm以上、女子24mm以上とする。長さは50mm以上とする。
 - ・鏑は皮革または化学製品のものとする。その大きさは直径9cm以下のものとし竹刀に固定する。色は茶色、または白とする。リバーシブル鏑については、茶色面を上に向けて使用することで、使用を認める。これら以外のものを使用した場合には、その場で指導し、替えさせる。弦の色の規定はありません。
- (12) 検定に合格した竹刀には、検量確認のテープを貼る。(埼玉県中体連剣道専門部申し合わせ事項参照)
- (13) 「不正な竹刀」を使用した場合、発覚した時点でその選手を失格(負け、相手に2本与える。既得権は無効。)とする。以後、その大会での出場はできない。「不正な竹刀」とは「検定で合格していない竹刀」、「ビニールやセロテープを巻いた竹刀」、「異物を挿入した竹刀」(異物とは先革のゴム、柄頭のチギリ鉄片一以外のすべてをいう。)※カーボン竹刀の使用は可。
- (14) 検定は、団体戦、個人戦別々に行う。

2. 試合運営に関すること

- (1) 審判員の服装は、紺色のブレザー、白のワイシャツ（カッターシャツも可、ボタンダウンは不可）、無地でグレーのスラックス（女子はグレーのスカートも可）、エンジのネクタイ、紺色の靴下とする。（ブレザーの着用については、審判長の指示とする。）また、ネクタイピンは見えないところに付ける。
監督・外部指導者の服装もこれに準ずる。
- (2) 選手・監督・競技役員（補助生徒も含む）以外は、試合場には入らない。
部活動指導員は、監督として試合場に入ることができる。外部指導者は、監督として試合場に入ることはいできない。※外部指導者席は各試合場に設けてあります。
※ただし、監督・引率者の特例として、日常、指導している顧問が引率できず、校長がやむを得ないと判断した場合に限り「関東中学校体育大会監督・引率細則」により、校長が承認した外部指導者に引率及び監督の資格を認める。外部指導者が引率・監督を務める場合は、大会事務局に参加申込書時に提出する。
- (3) 試合場への選手の入場の際、選手席後ろに整列し、**礼の後**、着座する。
退場の際も同様。選手は竹刀を、手に持って入退場する。
- (4) 団体戦で相互に礼をする時、開始時は先鋒・次鋒、終了時は大将のみ面、小手を着け、竹刀を持って横一列に並ぶ。**どちらかのチームまたは両チームが3名か4名の場合、両チームの中堅までの選手は面・小手を着用し、竹刀を持って始めの礼を行う。**先鋒が審判側に、中堅が中心点の位置に並ぶ。
- (5) 団体戦の礼の「開始」「終了」は1試合ごとに行う。
- (6) 試合の際、監督が着席したことを確認してから試合を開始する。
 - ・団体戦は、全試合。
 - ・個人戦は**ベスト 16** 以上から**※団体戦で監督は、チーム間の始めの礼の後、速やかに前列量に移動し、選手を待たずに着座する。**
※団体戦で男女、個人戦で同一校から複数選手が同時に試合の場合は、予選母体の専門委員長、同地区で監督が依頼した顧問に、監督を代行してもらうことができる。
※個人戦で、試合が終了した監督は選手を待たずに速やかに下がり、選手の入替えをスムーズにする。
- (7) 正面への礼は第一試合の開始時、及び決勝戦の開始、終了時のみとする。選手は相互の礼だけとし、審判員や試合終了後の個人的座礼などは行わない。
- (8) 試合者は、審判員が移動し、所定の位置に着くまで、試合場に入ってはいけない。
- (9) 団体戦では、先鋒戦及び最後の試合者の対戦の場合、監督、選手ともに正座する。
個人戦においての監督も同じとする。
- (10) 選手・監督の試合場での位置は指定された位置とする。
- (11) 選手交代の際の余計な所作（胸突き、タッチ等）は禁止する。
- (12) 選手・監督のサイン・声援は禁止する。（違反の場合は、審判主任が指導する。）
- (13) 選手変更の場合は、前試合までに審判主任・試合場主任に申し出て、変更する。
- (14) 男子の更衣については、観客席・応援席等で行う、女子の更衣については、指定された場所で行う。
- (15) 練習は指定された場所で行う。
- (16) 審判合議の時は、選手は立ったまま納刀し、試合場内で蹲踞をして待つ。
- (17) 試合場への時計の持ち込みは禁止する。
- (18) 剣道具の着装は、面紐は結び目より 40 cm以内、小手紐はきちんと結ぶ。
- (19) サポーター等（足袋・テーピング（白・肌色）・コルセット等）の使用については、医療上必要と認める場合に限り使用を認める。相手に危害を加えたり、公正さに欠けるものは使用しない。使用の際の「屈け」は不要とする。
- (20) 目印については、幅 5 cm、長さ 70 cm以内のものを各校または個人で用意する。
- (21) 選手の布製の名札（垂れ名札）は、規定のものを着用する。着用していない場合は出場を認めない。
- (22) 面について、面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。ポリカーボネート面の使用は認める。アイガードも可。
- (23) 面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
（日本中体連申し合わせ事項による）

- (24) 選手が5人揃わない場合は、次のように登録する。
- ① 3人の場合は、先鋒・中堅・大将
- ② 4人の場合は、先鋒・中堅・副将・大将
- (25) 第一試合は、先鋒が9歩の間合いに立ち、全試合場が揃ったところで、審判長の合図（太鼓等）で礼をし、開始する。
- (26) 準決勝は4試合場で、アナウンスによって同時に開始する。
- (27) 決勝戦は、団体戦・個人戦ともに2試合場（男女同時）で行う。
- (28) 掲示の仕方について。

掲示要領

1. 掲示項目および掲示内容

主審の宣告により、下記の表示物を正確に掲示板に表示し、審判員・試合者ならびに観衆に試合経過が分かるようにする。

項 目	表 示 物	掲 示 内 容
有効打突	㊄ ㊂ ㊀ ㊃	㊄=面 ㊂=小手 ㊀=胴 ㊃=突き 有効打突の掲示の順序は右記第1図の大将戦のように掲示する。
反 則	▲	反則の場合は枠の上下両端の左側に「▲」(赤色)を掲示する。
反則2回	㊄	反則2回で反則「▲」を取り除き、「㊄」を相手側に掲示する。
相 殺		相殺の場合は相殺前の反則「▲」の掲示は残す。ただし記録用紙に相殺前の欄を設け、回数を記録する。
判定勝ち	㊄	判定勝ちの場合は「㊄」を掲示する。
抽選勝ち	㊄	抽選勝ちの場合は「㊄」を掲示する。
一本勝ち	一本勝	一方が1本取得し、試合時間が終了した場合は「1本勝」を掲示する。
延 長	延 長	延長戦の場合は枠の中心線の左側に「延長」を掲示する。
引き分け	×	引き分けの場合は枠の中心線の中央に「×」を掲示する。
不戦勝ち・棄権 試合不能	○	不戦勝ち・棄権・試合不能および不当行為などで勝敗が決した場合は、勝者側に「○」を、延長戦の場合は「○」を掲示する。

2. 掲示方法

(1) 団体試合での審判員名および団体名・選手編成ならびに表示物を掲示板に掲示する方法は第1図のとおりとする。

第1図 掲示板および掲示方法

第1図 揭示板および揭示方法

区 分	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	審 判 員	
団 体 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名	主 審 名	
赤	㊄ 一本勝	延	○ ○	㊄ ×	▲ ㊄ ㊃	← 1 本目 ← 3 本目	副 審 名
白		判		㊄	㊂ ▲	← 2 本目	副 審 名
団 体 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名	選 手 名		

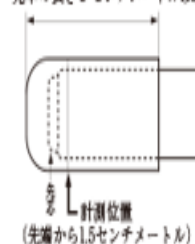
(2) 個人試合での掲示方法は、その大会で定められた方法で掲示する。

表1 竹刀の基準（一刀の場合）

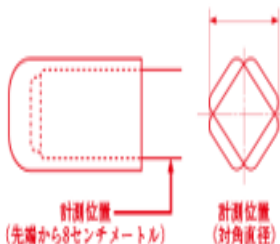
	対 象	中学生	高校生 (相当年齢の者も含む)	大学生・一般
長さ	男女共通	114センチメートル以下	117センチメートル以下	120センチメートル以下
重さ	男 性	440グラム以上	480グラム以上	510グラム以上
	女 性	400グラム以上	420グラム以上	440グラム以上
太さ	男性	先端部最小直径	25ミリメートル以上	26ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上	21ミリメートル以上
	女性	先端部最小直径	24ミリメートル以上	25ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上	20ミリメートル以上

<竹刀の先鋒長、先端部最小直径値の計測方法>

先鋒の長さ5センチメートル以上



<ちくとうの最小直径値の計測方法>



埼玉県中体連剣道専門部 申し合わせ事項

◎ オーダーミスによる措置について

① 試合開始前に発覚した場合は、正規のオーダーに改めさせ、特に罰則は与えない。

※ 試合開始とは、主審が「はじめ」の宣告をした時とする。

② 試合中に発覚した場合は、次のような措置をする。

● 表示が異なる選手が試合を行った場合は、該当する選手のポジションは、既得本数を認めず、相手に二本を与えて、負けとする。

※ 自らがまだ試合をしておらず、本来のポジションの試合が行われていなければ、本来のポジションで試合を行うことができる。

例Ⅰ．次鋒戦の最中に先鋒と中堅のオーダーミスに気がついた。

・先鋒、中堅ともに既得本数を認めず、相手に二本を与えて、負けとする。

例Ⅱ．次鋒戦の最中に先鋒と次鋒と副将のオーダーミスに気がついた。

・先鋒・次鋒すべて、既得本数を認めず、相手に二本を与えて負けとする。

・副将は正しいオーダーに変えて試合ができる。(先鋒・次鋒戦で出ていない場合)

③ 試合後に発覚した場合は、次のように措置する。

・試合後とは、団体戦では団体の礼、個人戦は、個人の礼を終了時とする。措置は②のとおりとする。

・ミスのあった選手は、当該試合以後（勝ち上がった場合）の出場を認める。（教育的配慮）

◎ 検定を通過した竹刀について

竹刀検定を通過した竹刀については、シールを貼る。

審判を行う際、シールが貼ってあるかを確認する。何もシールが貼られていない竹刀は不正竹刀とみなす。試合時に検定を通っていない竹刀とわかった場合、以下の通りの対応とする。

① 試合開始前にわかった場合

ただちに検量を通過した竹刀と交換する。

また、検量所で確認を受け、シールを貼ってもらう。

② 試合開始後にわかった場合

検定を通っていない竹刀を使用した試合者は、不戦敗となる。

※団体戦と個人戦に出場する選手は、それぞれの日に貼られたシールを剥がして、検定を受けること。

※不正竹刀の内容については、「埼玉県県大会、監督・審判打ち合わせ事項」の1. 試合規則に関すること（14）を参照。

◎ 試合での面紐・胴紐に関して

面紐・胴紐に関しては関東大会等で定められている規定に準ずる

* 令和元年度第44回関東中学校剣道大会参照

・特別規定 面紐・胴紐は紺色系か白色のみの使用を認める。 と定められている。

<継続事項>

○両者の検定シールを見極め、(約3秒程度、間をあけて)その後、「はじめ」の合図で試合を開始する。

○膝立ちで蹲踞する生徒の対応について → 膝立ちの状態から、「はじめ」の合図で試合を開始する。

◎面マスクかマウスガードを必ず着用をしての参加とする。

令和8年度「重点指導事項」について（お願い）

令和7年度第55回全国中学校剣道大会の運営及び試合・審判についての反省と今まで引き継がれてきた課題から、次年度の山口大会に向けて「重点指導事項」を策定いたしました。

つきましては、各都道府県の大会や強化会・講習会等において、顧問及び地域クラブ代表者に周知徹底いただきますようお願いいたします。

記

1 申し合わせ事項についての徹底

- (1) 「申し合わせ事項」（別紙）についてのご理解とご協力、指導の徹底をお願いします。

用具・着装全般（文字等を含む）について従来の伝統的な色や形を安易に変える傾向が若干見られますが、極力「申し合わせ事項」には加えず、「指導」の形で対応します。規則に固執することなく「質実」という伝統文化の良さを積極的にご活用いただき、ご協力をお願いいたします。

2 礼法について

- (1) 蹲踞の「始め」と「終わり」を正確・丁寧に行う。
※ 「始め」は竹刀を抜きながら蹲踞し、静止する。
※ 「終わり」は納刀した後、右手を右太股においてから立ち上がる。
◇ 詳しくは、剣道指導要領P44、45参照
- (2) 団体の礼の前後や選手交替時における余計な所作は改める。
※ 円陣を組んでの発声やパフォーマンス、胴づき、握手など
※ 団体戦の選手入れ替えを速やかに行う。（個人戦も同様）
◇ 全日本剣道連盟剣道試合・審判運営要領「その他の要領」5項参照

3 その他

- (1) 危険かつ見苦しい暴力的行為は、厳に慎むようご指導ください。
- (2) 「安易に左拳を中心線から外す防御姿勢をとらせない」いわゆる「公正を害する変形な構え」について、今後も継続してご指導ください。
- (3) 「鏝競り合いの解消途中」で時間空費が目的と思われる打ちを継続する場面が見受けられます。反則行為としてご指導ください。
- (4) 面紐の長さは結び目から40センチメートル以下です。また結び目の位置が高過ぎる選手も見られました。面が外れたり、転倒時に後頭部を保護できなかったりする可能性があります。危険防止として適切な位置で結ぶよう、今後も継続してご指導ください。
◇ 剣道試合・審判・運営要領の手引きP25参照
- (5) 着想は華美にならぬようご指導ください。学校名（地域クラブ活動名）、校章意外の刺繍やワッペン等を、剣道着の袖につけたり、入れたりしないようにしてください。袴の裾や防具等にも刺繍やワッペンをつけないでください。
- (6) 試合者の名札は、生徒役員が判読しやすい字体にしてください。
- (7) 試合者が、試合中に中止要請をする場合、「タイム」と発声するようご指導ください。
- (8) 剣道着の袖についても危険防止の観点から肘が隠れる長さとし、縫い上げ等の加工をしないようご指導ください。
- (9) 「応援は拍手のみ」を各地区大会から周知徹底してください。

<次年度の全国中学校剣道大会競技規則>

（公財）全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則、同細則」及び令和8年度（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項による。更に、以下を含めた試合・審判の運営を行う。

- ① 「剣道試合・審判・運営要領の手引き」（令和6年9月1日改訂）
② 「令和8年度（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部審判員共通認識事項」

<本件に関する問い合わせ先>

（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部長 山下 克久
勤務先：茨城県阿見町立朝日中学校
電話：029-842-7771

令和8年度(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部 審判員共通認識事項

本共通認識事項は、令和5年度にコロナ禍で開催された四国前中をきっかけに審判員のみならず、日々の稽古など様々な場面で、選手や指導者が共通の認識を持ち、一体となって「正しい剣道」「正しい試合」を醸成していくために作成されたものです。地域クラブとも連携を図り、広く周知していただきますよう、皆様の御協力をよろしくお願いします。

1 (公財)日本中学校体育連盟剣道競技部 ブロック長会議より

(1) 全日本剣道連盟(R6.9.9発出)『剣道試合・審判・運営要領の手引き』の改訂に係る確認事項について

- つば(鰐)競り合い解消に至る時間は「一呼吸(3秒程度)」。
- つば(鰐)競り合いを解消する場合は正しい鰐競り合いから鰐と鰐で競り合う力を利用して積極的(一気)に解消する。
- つば(鰐)競り合い時の発声については、「指導」や「反則」とはしないが、鰐競り合いは互いが最も接近して緊迫した状態であることから、日頃の稽古や試合においては極力発声しないよう指導する。
- 審判員の移動・交替要領・団体試合の整列方法に関しては、「暫定的試合審判法」実施以前に戻す。
「剣道試合・審判・運営要領の手引き」p15 図の通りとする。
- マスクの着用について
・引き続き、面マスクまたはシールドを着用する。

(2) 団体戦の代表者戦、個人戦での延長戦について

- 延長戦は2分ずつ区切って行う。
 - ・ 試合時間3分⇒延長2分⇒延長2分⇒【小休止(深呼吸をする程度)】
⇒延長2分⇒延長2分⇒【休憩(面を外して給水)】
※上記を繰り返す。
 - 【小休止】⇒ 開始線の位置で10秒程度の深呼吸。
 - 【休憩】⇒ 立ったまま納刀し、待機場所に戻って面を外し、所定の場所(※1)で水分補給を行う。試合再開までの時間は5分とする。(※2) その際、監督は選手に指示をしない。
※1…給水場所については、会場の状況や使用上のルールに応じて決める。
※2…計時については、試合場主任もしくは時計係が所定の場所で計測する。

<審判員の所作>

【小休止】審判員は試合者に「その場で深呼吸しましょう」と促す。

【休憩】左手に審判旗を持ち、右手を右斜め下方に伸ばし、手の平を下に向け「休憩」と宣告する。

(3) 裏交差について

- つば(鰐)競り合いの際、裏交差になっている場合は、正しいつば(鰐)競り合い(表交差)に戻してから、或いは戻しながら解消する。再三繰り返したり、意図的な行為と判断されたりした場合は、合議の上、反則を適用する。
- 裏交差のままで分かると直ちに反則になるものではなく、意図的に裏交差にする場合や、一方が表に戻そうとするとを合わせずに分かれる場合などを繰り返し、明らかに公明正大に試合をしていない場合について反則の対象とする。

2 審判員共通認識事項

(1) つば(鏢)競り合いについて

○ つば(鏢)競り合いの定義

「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P9 三「規則の解釈と運用」 2「つば(鏢)競り合いについて」

つば(鏢)競り合いは、鏢と鏢とが競り合って互いが最も接近して緊迫した状態である。つば(鏢)競り合いは攻防や打突行動の中から発生した相対関係である。

つば(鏢)競り合いになった場合は、試合者は積極的に技を出す、積極的に解消するように努めなければならない。しかし、鏢迫り合いが長く（一呼吸：3秒以上）続くようであれば、基本的には次の観点から総合的に是非を判断する。

① 正しい鏢競り合いをしているか。

② 打突の意思が有るか。

③ 分かれる意思が有るか。

○ 「剣道試合・審判・運営要領の手引き」三 2 P10～11 より

- ・ 終始、拳が相手の刃部にかかっているような場合は、明らかに不当なつば(鏢)競り合いである。
- ・ 暴力的であったり、意図的なひっかけ(ひっかけることを目的にする)だったり、一般的に見て異常な行為であれば、禁止行為に該当する。
- ・ 膠着や不当なつば(鏢)競り合いに関する処置は、試合の運営にかかわる主審の専決権限の事項である。したがって、副審は「止め」を宣告することができない。

(2) つば(鏢)競り合い開始の起点と解消の見極めについて

「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P31 事例 5

- 鏢競り合いは鏢と鏢が競り合っている状態であるが、近間での攻防が尽き、鏢競り合いにならずとも相互に接近した状態から鏢競り合いの開始時点とする。
- 相互の剣先が完全に離れる(直ちに打突できない間合で相互に中段の構えをとる)まで積極的(一気)に解消しているか注視する。

(3) つば(鏢)競り合いの解消途上の見極めについて

「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P33 事例 8

- 正しい鏢競り合いから鏢と鏢で競り合う力を利用して積極的(一気)に解消しているか、年齢や錬度を考慮し審判員は総合的に判断する。
- 解消途中に不当な行為がないか。
 - ・ 下がると見せかけて打突する行為。
 - ・ 竹刀を意図的に肩に掛ける行為。
 - ・ 竹刀を払う、巻く、抑え込む、ひっかける行為。
 - ・ 竹刀を開く、下げる行為。
 - ・ 故意に体を反らせたり、曲げたりする行為。
 - ・ その他、不当と思われる行為。明らかに解消途上に不当な行為がある場合は、合議の上「反則」を適用する。微妙な場合は2回、3回と続けば合議の上、判断する。
- 解消の際に一本先取された試合者が早く勝手に下がったり、逆に先取した試合者はなるべく時間を掛けて分かれたりするような場面が見受けられる。一般的に先取した方の選手を時間空費の反則にとる傾向が見受けられるが、目的と現象をよく見極めて総合的に判断する。

(4) つば(鏢)競り合いが膠着した際の分かれの宣告について

「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P11

- つば(鏢)競り合いが膠着した場合は「分かれ」をかける。安易に「分かれ」を宣告すると、試合者は審判員の「分かれ」に頼り、これを利用してしまふことになりかねない。膠着の状態を安易に考えないようにする。

- (5) 公明正大に試合ができていないと判断される攻防について
- 意図的な時間空費や防御姿勢(勝負の回避)による相手に接近するような行為は、規則第1条に則り反則を適用する。審判員は以下のような場面を見逃さず、「公明正大に試合を展開する」ことを優先させ、選手達が正しい試合、正しい剣道ができるよう厳正に判断する。
 - ・ 「変形な構え」となるまで左拳は挙げていないものの、巧妙に防御姿勢(勝負の回避)をとって相手に接近したり、意図的に時間空費を行ったりする。
 - ・ 時間空費が目的と思われる打突を繰り返す。
 - 明らかに意図的な行為であれば即座に反則とする。
 - 意図的な行為とは断定できないものの、疑わしい行為が再三繰り返されれば反則とする。
- (6) 「公正を害する行為」と「時間空費」の見極めについて
- 時間空費を目的として公正を害する行為を行うことも考えられるため、総合的に判断する。
 - 公正を害する行為
 - ・ 意図的に表から裏交差にする行為
 - ・ 分かれる際に不要な動き（おさえる、巻く、逆交差にする、肩にかけて分かれるなど）をする行為
 - 時間空費
 - ・ 意図的にゆっくり下がる。または、相手を下がるさせる行為
 - ・ 勝負の回避、手元をあげて相手に接近する行為
- ※審判3名の中で、2名は時間空費、1名は公正を害する行為というように判定が割れる場合もある。
- (7) 合議について
- 合議の最中にジェスチャーは行わない。口頭で合議を行う。
 - 合議は相談ではなく、確認である。短時間で行う。
- (8) 合議後の説明から反則の宣告までの流れについて
- 合議後、主審は定位置には戻らず、その場で選手を待つ。選手が開始線に出てきて構え直したら近付いて説明を行う。その後、定位置に戻り、旗表示をした後、反則を宣告する。
- (9) 反則を適用する際、反則名は宣告するのだろうか
- 選手に説明をしたうえで「反則1回」と宣告する。(反則内容は監督にも聞こえるように説明する。)
- (10) 「押し出しの反則」なのか「場外反則」なのかの見極めについて
- 「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P26 〈主な事例の解説〉
- 〈事例5〉体当たりと押し出しとを区別する判断の基準はあるか。
- ① 打突後の体当たりや相手を崩して打突するなど、打突に結びつく行為でなければ不当な押し出しになる。
 - ② 打突の意志がなく、押し出す目的であったのか否かを見極める。
 - ④ 堪えられる程度の接触なのか否かを見極める。
- (11) 竹刀を落とした場合の判断について
- 竹刀を落とした者の「反則」とする。ただし、故意に相手の竹刀を落とすことを目的とした行為（何度も竹刀をたたき、竹刀をひっかける等）であれば、公正を害する行為として、その行為を行なった者の「反則」とする。
- 「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P25 〈主な事例の解説〉
- 〈事例3〉 一方が自分の竹刀で相手の竹刀を強く叩いて落とした。強く叩いた側が反則になるか、それとも落としてしまった側が反則になるか。
- ① 攻防の中で叩いたのであれば不当な行為にはならない。落とした側を反則にする。
 - ② 強く叩いた行為が見苦しい場合は、第1条の本規則の目的に照らして反則にする。
- (12) 変形な構えに対する左小手への打突について
- 有効打突の要件・要素を満たしていれば1本となる。
- (13) 倒れたとき、うつ伏せ等による相手の攻撃に対応する意志が見られない行為は、反則を適用する。
- 「全日本剣道連盟剣道試合・審判規則」 P11 細則 第16条5

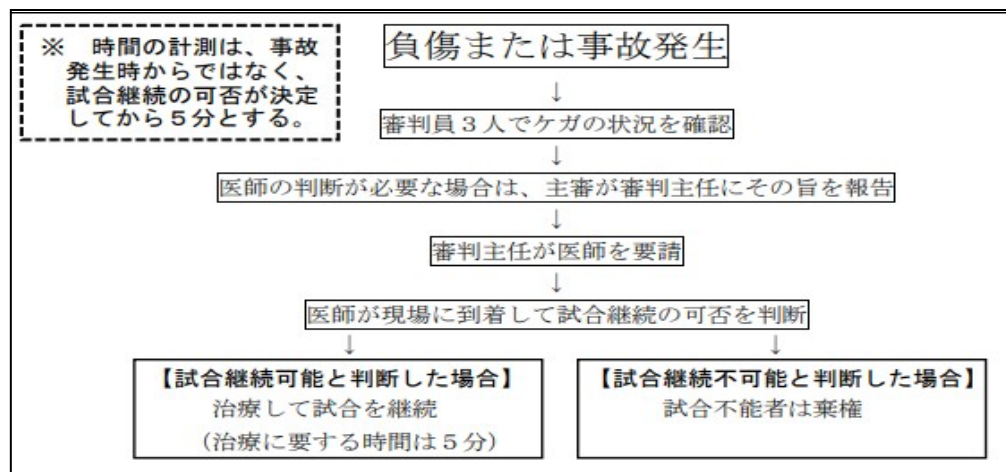
(14) 片手を放しての防御姿勢について

- ・ 返し胴を打突した後など、後打ちを避けるために右手で竹刀を持ち、竹刀および右手・右腕で面、柄部で小手、左腕で胴を隠して防御する行為。
 - ・ 身体接触等で崩されて片手が竹刀から離れた際、同様な形で相手の打突を避けようとする行為。等
- 一瞬ではなく一定時間以上その姿勢を取った場合、原因と現象を見極めて反則を適用する。

(15) 負傷または事故発生時の対応について

※(公財)全日本剣道連盟剣道試合審判規則・規則第2節「審判の処置」による。

① 試合者が負傷などした場合は、次の要領で処置をする。



② 審判員は、試合継続の可否判断が下されるまで試合場内に留まる。

③ 相手選手については、そのときの状況により、審判主任の判断で対応する。待機中、監督からの指導は認めない。

④ 試合継続の可否判断が下された後の審判員の動きについては、試合者に準ずる。

【上記表※の補足】

- ・ 「棄権」とは、その試合に対する判断であり、団体戦においてはその後の回復状況によって医師および審判員の判断、並びに監督（保護者）との相談の上、その後の試合に出場することができる。
- ・ 負傷により試合が継続できないとき、その原因が一方の故意および過失による場合は、その原因を引き起こした者を負けとし、その原因が明瞭でない場合は、試合不能者を負けとする。
- ・ 加害者として負けとされた者は、その後の試合に出場することができない。

(16) 異議の申し立てについて

「全日本剣道連盟剣道試合・審判規則」 P22 規則

第35条 何人も、審判員の判定に対し、異議の申し立てをすることができない。

第36条 監督は、この規則の実施に関して疑義があるときは、その試合者の試合終了までに、審判主任または審判長に対して、異議を申し立てることができる。

○ 規則の実施に関して、監督自身の理解が不十分な場合や、選手を一旦落ち着かせるような意図などで異議の申し立てが行われる疑いがある時などは、審判主任や審判長は毅然と対処する。

(17) 主審の専決事項と副審からの合議について

- 「剣道試合・審判規則・同細則」 P18 規則 第2章審判 第1節審判事項 および「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P8「合議」

○ 「剣道試合・審判・運営要領の手引き」 P11、P30、32、33、34〈事例4〉〈事例6〉〈事例7〉〈事例9〉
・「膠着」や「不当な鏝競り合い」に関する処置は試合の運営に関わる主審の専決事項である。

- ・「意図的な時間空費」、「防御姿勢による接近する行為」に関する処置も、試合の運営に関わる主審の専決事項である。

- 「剣道試合・審判規則 同細則」 P16 規則

第24条③「副審は…主審の補佐をする。なお、緊急のときは、試合中止の表示を宣告することができる。」

- ・上記に示した主審の専決事項以外で、危険・違法・不当な行為があったとき。（場外に出たか出ていないか、竹刀を離し操作不能になった、相手の竹刀を握った、刃部を握ったなど、見落としや見誤りがあった場合など。）

- 一方の試合者が不利益を被るようなことはあってはならない。上記に示した主審の専決事項や副審の任務についての共通理解を図った上で実施する。

(18) 審判旗の巻き方について

- 審判旗の巻き方(縦巻きか横巻きか)は、大会ごとの申し合わせ事項により決定する。

(19) 「変形な構え等の防御姿勢」について

- 「変形な構え」で微妙な場合は複数回見ること。明らかな場合は即指導をとる。左拳の位置、剣先(けんせん)の下がり具合が判断基準となるが、微妙な形を繰り返す場合、合議を掛けて確認をする。

※ 変形な構えによる防御姿勢で相手に接近するなど、意図的に勝負を回避する行為は、反則を適用する。

(20) 試合開始時の蹲踞・「始め」の宣告について

- 正しい蹲踞、竹刀と目印をきちんと確認してから「始め」の宣告を行う。
- 開始線で蹲踞もしくは構えた状態で、選手の竹刀や体が動いている場合はきちんと静止させる。
 - ・ この徹底により、試合者が正しく構えて打突動作に入ることができる。構えが成立する前に打突動作に入った場合は、ただちに主審は「止め」を宣告する。もし、打突が当たったとしても有効打突として認めない。その後、試合者に指導したうえで再度「始め」を宣告する。このとき、試合者に再び蹲踞をさせる必要はない。
- 終了時は、蹲踞の姿勢で納刀し、右手を太ももに置いてから立ち上がる。正しい動作が行えない場合はその場で指導し、やり直させる。
- 膝の怪我などで正しい蹲踞ができない場合の対応について
 - ・ 試合が始まる前までに、監督が各試合場の審判主任に申し出る。
 - ・ 審判主任は当該試合の審判員と対戦校の監督にその旨を伝える。

(21) 団体戦における先鋒戦の開始の宣告について

- 大会運営をスムーズに行うため、監督が畳に座ったことを確認してから「始め」の宣告を行う。
 - ・ 監督は、チーム間の始めの礼の後、速やかに前列畳に移動し、選手を待たずに着座する。
 - ・ 選手は、前の試合のチーム間の終わりの礼の後、直ちに2列目の畳から立礼の位置へ移動し、チーム間の始めの礼を行う。面・小手・竹刀の移動は、チーム間の礼が終わった後に行う。

(22) 団体戦で、どちらかのチームまたは両チームが3名か4名の場合の始めの礼について

- 両チームの中堅までの選手は面・小手を着用し、竹刀を持って始めの礼を行う。

【本件に関する問い合わせ先】

(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部長
阿見町立朝日中学校 校長 山下 克久
TEL 029-842-7771
FAX 029-842-2865
Mail yamakatu.4266@gmail.com

※原則、各地区ブロック長や各県専門部長を通してご連絡ください。

(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部

顧問・部長・各ブロック長 殿

各都道府県専門部長(委員長) 殿

各中学校剣道部顧問 殿

各地域クラブ活動代表者 殿

令和8年度(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部 審判員共通認識事項 変更・追記箇所について

(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部

四国ブロック長 西山 和輝

令和7年度版からの変更・追記した主な箇所は以下の通りです。よろしくお願いします。

2 審判員共通認識事項

(1)「つば(鏑)競り合いについて」…以下を追記しました。

○つば(鏑)競り合いになった場合は、試合者は積極的に技を出すか、積極的に解消するように努めなければならない。鏑競り合いが長く(一呼吸:3秒以上)続くようであれば、基本的には次の観点から総合的に是非を判断する。

- ① 正しい鏑競り合いをしているか。
- ② 打突の意志が有るか。
- ③ 分かれる意志が有るか。

(4)「つば(鏑)競り合いが膠着した際の分かれの宣告について」…以下を追記しました。

○つば(鏑)競り合いが膠着した場合は「分かれ」をかける。安易に「分かれ」を宣告すると、試合者は審判員の「分かれ」に頼り、これを利用してしまうことになりかねない。膠着の状態を安易に考えないようにする。

(15)「負傷または事故発生時の対応について」…試合不能者が「棄権」となった場合の対応について追記しました。

○「棄権」とは、その試合に対する判断であり、団体戦においてはその後の回復状況によって医師および審判員の判断、並びに監督(保護者)との相談の上、その後の試合に出場することができる。

(17)「主審の専決事項と副審からの合議について」…主審の専決事項を整理しました。

- 「膠着」や「不当な鏑競り合い」に関する処置は、試合の運営にかかわる主審の専決事項である。
- 「意図的な時間空費」、「防御姿勢による接近する行為」に関する処置も、試合の運営にかかわる主審の専決事項である。

令和7年度内の意見の集約や取りまとめ、ブロック長間の連絡調整については、四国 西山が行います。何かございましたら、以下までお願いします。

【本件に関する問い合わせ先】

(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部 四国ブロック長

まんのう町立満濃中学校(香川県)

教諭 西山 和輝

0877-73-2107 (学校 TEL)

0877-73-4685 (学校 FAX)

manno-j@manno-j.ed.town.manno.kagawa.jp(学校代表アドレス)

※原則、各地区ブロック長や各県専門部長を通してご連絡ください。

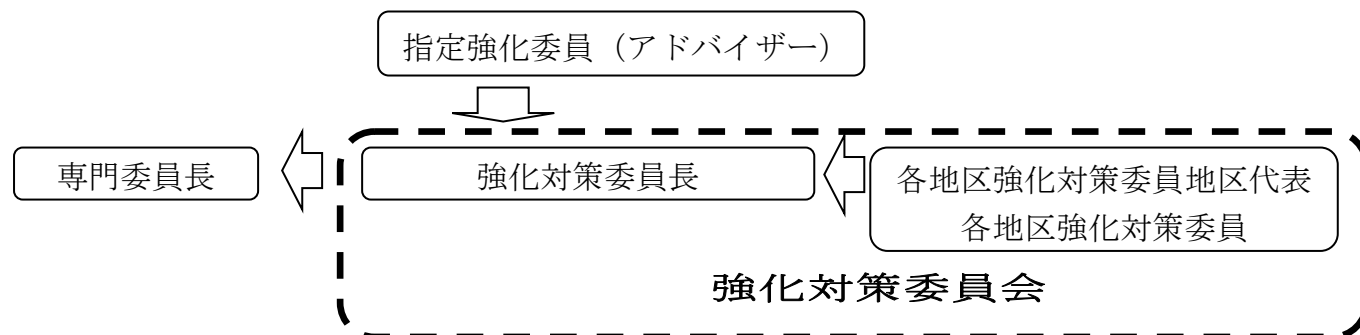
令和8年度埼玉県中体連剣道専門部 新人県大会代表者会議資料 強化対策委員会



強化対策委員長 松田 昂也（春日部市立大沼中学校）

令和8年度 新人体育大会 に関する強化事業について

強化対策委員会組織



埼玉県中学生剣道交流大会について

- ・基本的には令和7年度までと同様の形を継続していくが、参加規定校数等や、参加人数は会場によって変動する。
- ・第3回まで終了。新人県大会終了後 第4回・5回を実施予定。詳細はHP等参照。
- ・団体申し込みはWebでの申し込みとし、個人参加（強化指定選手）の申し込みはFAXにておこなう。その他日程等、交流大会詳細は別紙参照 **※強化指定選手の扱いは下記を参照※**
- ・参加校は各回で、強化対策委員地区代表より推薦を受けた学校のみとする。
（各地区男女別3~5校程度）
- ・参加形態（学校・クラブ・道場等）については対応していく。
- ・交流大会の日程はHP掲載済み

学校新人体育大会 県大会

- 10月22日（木）：男女団体戦 10月23日（金）：男女個人戦
- ・個人戦組み合わせ担当
 - ・強化指定選手の選定
 - ・入館、整列関係の役割担当

埼玉県中学生秋季特別剣道交流大会運営について

10月17日（土）※前日準備なし※
会場：「大宮武道館」

- ・錬成会形式で実施予定。 県外招待錬成会
- ・参加規定は、埼玉県内は新人有力校（男子・女子で別に要項を配布済。）配布窓口は強化委員長のみにする。県外は関東近隣の都県とし、春季に参加をしてもらった学校に個別に配布する。県外校の選考は強化対策委員長でおこなう。

- ・参加形態（学校・クラブ・道場等）については対応していく。
- ・「強化候補選手」は個別での申し込みを受け付け、埼玉選抜として参加をすることが可能。

埼玉県中学生冬季特別剣道交流大会運営について

12月27日（土） ※前日準備なし※

会場：埼玉県立武道館

- ・錬成会形式で実施予定。 県外招待錬成会（順位決めリーグ戦形式）
- ・参加規定は、埼玉県内は新人県大会男女団体各ベスト4以上+αの学校とする。（男子・女子で別に要項を配布する。）配布窓口は強化委員長のみとする。県外は関東近隣の都県とし、秋季春季に参加をしてもらった学校に個別に配布する。県外校の選考は強化対策委員長でおこなう。
- ・参加形態（学校・クラブ・道場等）については対応していく。
- ・「強化指定選手」は個別での申し込みを受け付け、埼玉選抜として参加をすることが可能。

中高強化練習会（中高連携強化事業）

令和9年1月30日（土）

1日開催予定 ※日程変更の可能性もあり※

高体連強化部長：平井先生（淑徳与野高校）との連絡をとって決定していく。

（高校代表選手と合同稽古 一日予定）

中高強化練習会

埼玉県立久喜工業高校 ※会場変更の可能性あり※

- ・参加資格 . . . 令和8年度埼玉県中体連剣道専門・埼玉県剣道連盟部強化指定を受けた選手 男子16名、女子16名、計32名+αとする。

- ・運営 . . . 強化対策委員会 個別に強化委員長から参加依頼書を送付

埼玉県剣道連盟主催強化訓練

令和9年2月14日（日）

剣道強化訓練（小・中・一般合同）

埼玉県立武道館

- ・参加資格 . . . 強化指定選手、男子16名、女子16名 計32名

※剣連依頼の強化事業になりますので原則参加をお願いします※

- ・運営 . . . 埼玉県剣道連盟 個別に強化委員長から参加依頼書を送付

強化指定（候補）選手の選定について

・令和8年度に選出した強化【候補】選手は令和6年11月13日（水）までとする。

【強化指定選手選出の流れ】

- ①「強化候補選手」を中心に新人県大会にて選出
・（男女各16名）中高強化参加対象選手とする。
**・令和9年度実施の全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会
選手候補として強化訓練参加対象選手とする。**
- ②新年度に、新1年生を対象に「強化候補選手」として
数名選出する。（全員ではない）
（小学校時埼剣連から強化指定を受けている選手が対象）
※県外から入学は対象外※
- ③学総県大会終了後、「強化指定選手」の指定は解除。
（R9年度は学総県大会個人戦開催日）
- ④学総県大会の結果と②の「強化候補選手（新1年生対
象）」から1・2年生を対象にジュニア合宿参加選手を
選出。
- ⑤ジュニア合宿参加選手を「強化候補選手」とする。
※ジュニア合宿に参加（中止の場合は参加申し込み）をした選手と
する。

※①に戻る。

「強化指定選手」には埼玉県中体連剣道専門部より認定書を作成し配布
する。
令和8～9年度にかけての強化指定選手には中体連剣道専門部・埼玉県
剣道連盟の連名での認定書を配布予定。

令和8年度 強化対策委員名簿

○印は 各地区代表者

地 区	名 前	学校名	学校電話番号	学校FAX
強化委員長	松田 昂也	大 沼	048-736-9986	048-734-9420
東部地区 3	○平井 武蔵	吉川中央	048-982-0241	048-982-0236
	埜口 志穂	越谷北	048-975-1009	048-975-1487
	土田 翔平	越谷北	048-975-1009	048-975-1487
西部地区 4	○猿橋 陽介	坂戸若宮	049-281-2014	049-284-6654
	山崎 夏樹	堀兼	049-2959-3324	049-2959-3397
	小松 里香	東松山北	0493-23-1223	0493-23-1235
	菊川 樹	狭山中央	04-2959-2277	04-2959-2263
南部地区 2	○中川 勇作	川口南	048-222-3540	048-222-1831
	大西 航平	戸塚	048-295-0776	048-294-0436
北部地区 3	○黒澤 大輔	幡 羅	048-571-0229	048-571-0328
	金室 あかね	熊谷三尻	048-532-3657	048-533-2064
	千島 京香	熊谷別府	048-532-6004	048-533-2308
さいたま市 3	○中川 雄斗	尾間木	048-874-9773	048-810-1127
	内田 峻介	三 室	048-874-2331	048-810-1125
	大橋 基	美園南	048-878-3511	048-878-3512

※強化対策委員は、他の所属部と兼任して役割を担う※

- ① 交流大会の運営・補助・役員としての参加（所属地区開催の場合は、前日準備）
（交流大会申し込み担当として各地区から1～2名選出 ※Webに変更済）
- ② 特別交流大会の運営・補助・役員としての参加（選抜校であっても関係なし・若干名）
- ③ 中高強化事業（8月）の運営・役員としての参加（関東・全国出場校は免除）
- ④ ジュニア強化練習（8月）の指導者・運営補助（日帰り）
- ⑤ 都道府県対抗剣道大会 引率指導者・指導補助（※選抜※）
- ⑥ 学総（7・8月）新人（10・11月）県大会代表者会議における個人戦組み合わせ作成
- ⑦ 学総（7・8月）新人（10・11月）県大会の入館・誘導担当
- ⑧ 学総（7・8月）新人（10・11月）県大会時に強化候補（指定）選手選出をおこなう。
- ⑨ 12月特別交流大会1日目の強化練習指導者・運営補助（日帰り）
- ⑩ 中高強化事業（2月）の指導者・運営補助（※選抜※）
- ⑪ その他、県の強化事業に関わる仕事（その都度指示）